

平成 29 年度 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業

森も人も健康に

～筑北村 福祉の森プロジェクト～

業務成果報告書

---

平成 30 年 3 月  
株式会社柳沢林業

## 目次

1. 業務概要.....	3
(1) 事業の目的.....	3
(2) 事業の内容.....	3
(3) 業務の実施期間.....	6
2. 実施体制.....	8
(1) 経緯.....	8
(2) 目的.....	9
(3) 構成及びその役割.....	10
3. 事業実施の概要.....	12
(1) 協働定例会の設置・開催.....	12
(2) 協働取組カレンダーの作成.....	13
(3) 協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施.....	13
(4) 地方支援事務局への月次報告等.....	40
(5) 3か年の中期計画等の策定と実施事業の振返り     ※資料3、4参照.....	40
(6) 連絡会及び合同報告会への参加.....	41
4. 事業の評価・分析.....	43
(1) 協働取組のプロセス.....	43
(2) 波及的影響.....	43
(3) 実施環境.....	45
(4) 事業の成立性.....	45
(5) 汎用性(モデルケースとしての可能性).....	45
5. 協働取組を加速化する手法、要因、留意事項等.....	47
□資料.....	51
(資料—1) ■協働取組カレンダー ①事業の全体構成.....	52
(資料—2) 月次報告.....	54
(資料—3) 中期計画(簡易版)①事業構成.....	62
(資料—4) 中期計画(詳細版).....	64
(資料—5) 会議・協議 議事録.....	80
(資料—6) 第6回定例会資料.....	101
(資料—7) 里山フォーラムアンケート調査.....	102

# 1. 業務概要

---

## (1) 事業の目的

地域における課題解決や地域活性化の上で重要な役割を果たしている地域の各主体の活動を支援するため、中間支援組織の体制強化や地域における協力・連携体制の整備等を促進することが重要である。

このため、民間団体、企業、自治体等の異なる主体による協働取組を実証するとともに、中部環境パートナーシップオフィスが設置する「地方支援事務局」の助言を受けつつ、協働取組の過程等を明らかにし、協働取組を加速化していく上での様々な手法や留意事項等を、今後協働取組を行おうとする主体への参考となる実績として共有することを目的とする。

## (2) 事業の内容

「平成 28 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(筑北村東条地区における里山交流促進計画)業務」(以下、「昨年度事業」という。)において構築した協働取組の実施体制に加えて、新たに福祉・教育関係者及びこれまでの取組に関心が低かった地域住民等との協働を図り、福祉・教育分野との協働による里山環境保全に係る取組が地域の活性化に資することを検討する。具体的には、「人も森も健康に」をテーマに以下の業務を実施し、里山の環境保全に係る取組が確実かつ継続的に実施される事業体の創出を目指した。なお、業務の実施に当たっては、地方支援事務局と連携を密にしながら実施した。

### ①協働定例会の設置・開催

本事業の目的及び目標の共有を行うための協働定例会を設置し、本事業に関わる協働取組関係者(以下「協働関係者」という。)の役割を明確にし、取組の具体的実施方法の協議等を行った。協働定例会は、昨年度も開催しており、昨年度の協働関係者に加えて、新たに特定非営利活動法人やまぼうし自然学校、ソーシャルファーム松本自立支援センターが参画した。また、地域住民及び医療福祉関係団体の参加を得ることができた。

なお、協働定例会の開催に当たっては、協働関係者が相互理解を行う場であることを意識し、i)本事業の取組が継続的になるための体制の構築、ii)都市部からの関心・ニーズ等をワンストップで受ける対外的な窓口機能、についての具体的な検討・議論が行った。

### ②協働取組カレンダーの作成

中部地方環境事務所、地方支援事務局、協働関係者等が、本取組の目的、目標及び課題解決のための行動計画を共有するため、事業開始後速やかに別途地方支援事務局が示す様式により協働取組カレンダーを作成した。

### ③実施した協働取組

#### ア 筑北森林療法トレーナー(以下トレーナー)候補の選出と育成

トレーナーの役割は、村民を対象とした健康増進サービスの提供や都市住民を里山に受け入れる際のインタープリターである。この役割を担う人材の候補者を選定した。

里山が地域に身近なものとなるための、人と里山をつなぐトレーナー(愛称ちくほく楽木隊)を8名育成した。

#### イ 意見交換会の実施

育成プログラムの参考とするため、他地域での取組と本事業の取組を実地で相互参照の場である意見交換会を1回開催した。意見交換会には、トレーナー候補者が参加し、森林療法に関する専門家を迎えて行った。

#### ウ 筑北森林療法トレーナー育成プログラム(ちくほく楽木プログラム)の実施

トレーナー育成のため、4回(内2回は1日、2回は半日程度)の育成プログラムを実施し、トレーナーに必要な知識を習得させた。

育成プログラムの内容は、協働定例会の議論及び意見交換会の成果も踏まえて作成し、各回ともプログラムに関する専門性のある講師の参加を得ることができた。

#### エ 森林療法ニーズ調査の実施

プログラムの作成及び今後のトレーナー活用についての検討のためのニーズ調査を3回(1回半日程度)実施した。

#### オ 野外教育活動との連携

筑北村内における本取組の認知度・理解度の向上及び村民の里山への関心の高まりを促すために、村内で行われている野外教育活動(村が児童館と連携して行う自然体験等)に対して、フィールドとして整備した里山の空間の提供、活動を行う際に必要となる知見・ノウハウの提供等、積極的な協力を行った(5回)。

また、筑北村社会福祉協議会の障がい者自立支援センター「ちくほっくる」では利用者の方と連携し、山の手入れを中心とした森林保健活動を行った(20回)。

なお、整備した里山の空間の提供においては、必要に応じて事前に環境整備を行うなど、安全確保に努めた。

#### カ 経済的視点を含めた自立可能性の検討

本取組を継続的に実施するための自立可能な体制の構築に向けて、以下の取組を実施し、経済的視点を含めた自立可能性について検討した。

・木工製品開発企画会議の実施

間伐材の利活用の可能性及び本取組の実施体制の自律可能性を検討するため、間伐材を用いた木工製品の開発についての企画会議を3回開催した。

企画会議においては、製品の開発・販売活動を通じた地域住民(特に福祉施設の利用者)の経済的自立の一助となる方策について議論を行うほか、木工製品を一種類程度試作し、具体的な製造工程の検討をした。

・木工製品の開発・販売に係るニーズ調査

教育・福祉施設等を対象として、取組について理解と協力を得た上で、木工製品の開発・販売に関する、製造工程の検討に係るヒアリング調査を2回、試作品の試用状況に係るヒアリング調査を3回行った。

キ 里山フォーラムの開催

本取組の情報発信及び地域住民等の理解の促進を図るため、「里山フォーラム 2018 in ちくほく～みんなで創り守ろう、地域の里山～」を開催した。

筑北村村内にて、村内散策及び森林療法の体験と、森林講話・森林療法フォーラムと事業紹介の1コースと、廃材を利用した楽器づくりと演奏会の1コースから選択できる2本立てのプログラムを実施した。昼食提供には地域団体の協力を得た。

講師として、大学教授1名、音楽家1名を招聘し、地域住民、医療・福祉関係者など計54名が参加した。

④地方支援事務局への月次報告等

毎月の事業実施内容、新たに認識された課題等について、翌月5日までに地方支援事務局に報告するとともに、地方支援事務局からヒアリング等の要請があった場合は、適宜対応した。

⑤3か年の中期計画等の策定

3か年の中期計画、事業の振返り等を、別途地方支援事務局が示す様式に従い作成し、地方支援事務局に提出した。

⑥連絡会及び合同報告会への参加

連絡会及び合同報告会には、本事業の責任者および協働取組関係者が参加した。

ア 連絡会

本取組の課題の共有、事業の進捗の確認等のため、地方支援事務局の指定による場所において開催した連絡会(平成29年7月7日)に参加した。

今年度は、当取組のフィールドである筑北村で開催、審査委員との意見交換会を行った。また、中部環境パートナーシップオフィスが名古屋市において実施した「協働取組促進のための対話の場」(平成 29 年 10 月 13-14 日)に参加し、報告を行った。ほか、課題の共有、事業の進捗の確認等のため、必要な資料を作成した。

#### イ 合同報告会

平成 29 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業における全国の関係者が集まって開催される合同報告会(平成 30 年 2 月 17 日 於東京)に参加し、本年度事業の成果と 3 か年の中期計画等の発表・共有を行った。

#### ウ その他

以下の会議に参加し、本事業について事例発表を行うとともに、協働取組を拡大していくための意見交換を行った。

- ・平成 29 年 11 月 28 日(筑北村)環境省民間活動支援室長佐藤隆史氏との意見交換
- ・平成 30 年 1 月 18 日(長野市)中島恵理長野県副知事との意見交換会

### (3) 業務の実施期間

自 平成 29 年 6 月 29 日  
至 平成 30 年 3 月 16 日

■主な取組一覧(月次報告より)

	事業		会議	
	実施日	実施内容	実施日	実施内容
6月	6月29日	木工に取り組む福祉施設の視察		
7月	7月20日	木工商品開発に向けた施設の施設 (カスタネット工房)	7月7日	第1回連絡会
8月	8月2日	年間計画査定(上原氏)	8月28日	第1回協働定例会
	8月16日	事業の企画提案(田井中氏)		
9月	9月11日	農福連携講演会に参加(池田町八寿 荘)	9月13日	第2回協働定例会
	9月12日	筑北村村内山の価値の見直し		
10月	10月1日	薬草講座(小川康氏)	10月10日	第3回協働定例会
	10月6、7 日	樹林気功(藤田雅子氏)	10月13日 14日	マルチステークホ ルダーダイアログ
11月	11月7日	楽木づくりの為、木製楽器音楽家 を訪問	11月10日	第4回協働定例会
	11月9日	ユニバーサルツーリズム的先進地 視察	11月28日	環境省民間活動支 援室長佐藤氏によ るヒアリング。
	11月10日	ちくほく楽木プログラム開催		
12月	12月1日	他地域との意見交換(信濃町)	12月11日	第5回協働定例会
	12月5日	林福連携先駆者との意見交換		
1月	1月27日	タウン情報 記事掲載	1月18日	第6回協働定例会
2月	2月1日	市民タイムス 記事掲載	2月17日	ギャザリング連絡 会
	2月3日	前日準備		
	2月4日	里山フォーラム		
	2月5日	木工製品開発企画会議		
	2月16日	市民タイムス 記事掲載		

## 2. 実施体制

---

### (1) 経緯

本事業の実施に至るまでの里山・森林に関する地域活動と、筑北村の歴史について、主な経緯は、下記のとおり。

#### 【筑北村の歴史】

- 1875年(明治8年)～1889年(明治22年) 合併を重ね、本条⇒本城村の誕生
- 1945年頃まで(昭和20年頃まで)
- 農業(稲作)が中心。牛馬を飼い、荷車を引く時代。  
養蚕業が隆盛(桑の栽培、生糸工場)※昭和24年頃ピーク
- 1945年(昭和25年)～戦後の食糧難。桑の木を掘り返し、小麦や白菜を栽培。  
西条(サイジョウ＝「最上」)白菜の栽培。※現存する。  
一家族5～10人くらいの子供、村の人口ピークに。  
※昭和35年に11,361人
- 1960年頃まで 高度経済成長。製造業が隆盛。村内にも電子機器、鋳物工場が誕生。一方、都市へ働き手の流出、人口減が始まる。
- 1970年(昭和45年) 過疎地域対策緊急措置法成立と同時に、本城村、坂井村、坂北村の3村が過疎地域に指定される。
- 2015年(平成27年) 村内の小学校が統廃合。(本城地区には、小学校無くなる)  
※現在、人口4,600人程

#### 【本活動の前史】

- 1912年頃(明治45年～大正元年頃) (有)公益団の設立(竹之下愛林会の前身)
- 1974年頃(昭和49年頃) 竹之下愛林会(地縁団体)の設立。この頃、当地区の耕作地転用(畑跡での植林・造林)が始まったと思われる。
- 2013年(平成25年)4月 (株)柳沢林業が、当地区の邸宅の伐採工事を請負う。住民の要望を受け、当地区の山林整備の検討を開始。
- 2015年(平成27年)10月 森林調査の結果、従来通りの森林整備は、困難であるため断念。別の方法を模索。

竹之下愛林会代表(橋本定治氏)と、柳沢林業が面談。  
里山の手入れにつき、賛同を得る。



	親子はねやすめ(里山保全再生ネットワーク)代表と Re Forest Camp(筑北ファン倶楽部)代表と、柳沢林業が面会。取組の賛同を得る。
2016年(平成28年)年始	環境省協働取組加速化事業の応募検討開始。
2016年(平成28年)3月	橋本定治氏の呼びかけにより、「東条高畑及び森林整備協議会」(山林所有者の代表組織)が設立。 -筑北村社会福祉協議会への参加打診、承諾。 -村役場への本事業参加打診、承諾。 -平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業に応募(5月採択)
2016年(平成28年)5月	東京農業大学 教授 上原巖氏 山仕事創造舎(山川草木)代表 香山由人氏 両氏に、事業への参画を打診、承諾。
2016年(平成28年)7月	環境省協働取組加速化事業 筑北村東条地区における里山交流促進計画の開始
2017年(平成29年)3月	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業に応募(5月採択)
2017年(平成29年)5月	東京農業大学 教授 上原巖氏に、引き続き本事業への参加を打診、承諾。
2017年(平成29年)7月	本事業の開始

## (2) 目的

本事業の推進は、各組織・団体の代表者及び関係者が集まる「協働定例会」をもって行うこととし、目的を次のとおりとした。

### ① 里山の価値の見直し

筑北村の豊かな自然環境の価値を見直し、森林と人との共生関係の再構築を通じて、里山を中心とした山村の暮らしを再生する。

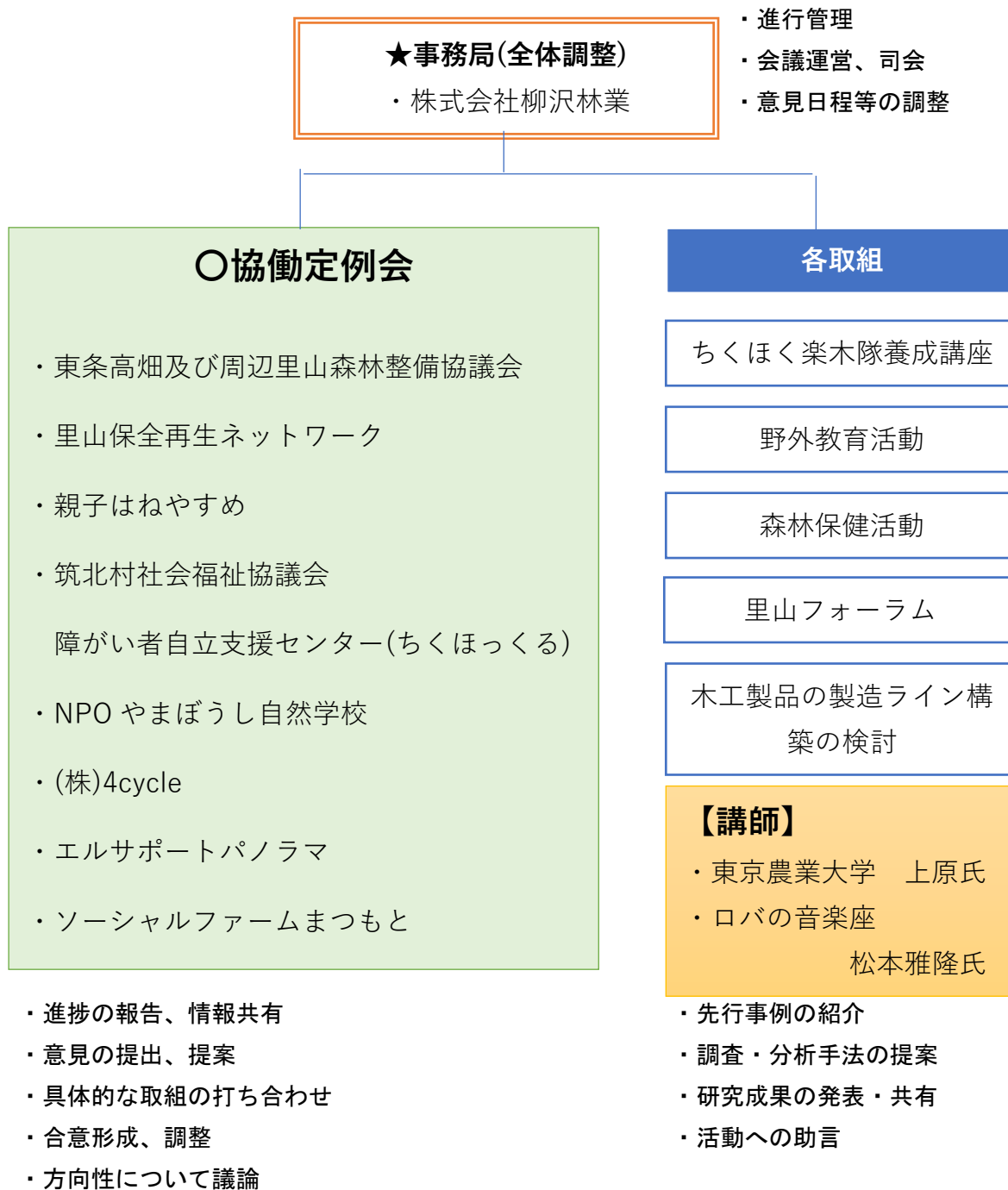
### ② 幅広い人々との連携づくり、関係の模索

地元住民のみならず自然環境に触れることを望む都市住民や、福祉・医療関係者など多様な立場の人々が関われる森を目指し、高齢者の健康促進・若者や障がい者の就労支援、都市と山村住民との交流、林業と福祉の連携といった多方面の関係構築を模索する。

### (3) 構成及びその役割

本事業を推進した協働定例会の構成を下図に示す。また、協働定例会に所属する関係団体の構成員及びその役割は、次の表のとおり。

#### ■推進体制図



■協働定例会 構成員

No	所属	氏名	役職等
1	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	橋本 定治	会長
2	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	米山 豊	副会長
3	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	橋本 正義	副会長
4	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	中村 嘉孝	会計
5	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	橋本 逸士	事務局
6	里山保全再生ネットワーク 親子はねやすめ	岩間 敏彦	代表理事 理事
7	筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる)	和栗 剛	施設長
8	筑北村役場(総務課)	宇都 章吾	主事
9	筑北村役場(産業課)	宮島 卓也	主事
10	株式会社柳沢林業	原 薫	代表取締役
11	株式会社柳沢林業	藤澤 良太	事務
12	株式会社柳沢林業	川本 良子	事務
13	ソーシャルファームまつもと (株)コミュニケーションズ・アイ	平林 明子 伊藤 かおる	代表
14	やまぼうし自然学校	加々美 貴代	代表理事
15	エルサポートパノラマ	高山 勝好	相談支援 専門員
16	筑北村企画財政課 地域おこし協力隊	大場 鈴子	
17	筑北村教育委員会事務局 地域おこし協力隊	進藤 香織	

■協働定例会 構成員以外の参加者(オブザーバー等)

No	所属	氏名	役職等
1	(株)4cycle	田井中 慎	代表取締役
2	東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科	上原 巖	教授
3	ロバの音楽座	松本 雅隆	代表
4	筑北村企画財政課 地域おこし協力隊	飯田 智子	
5	筑北村企画財政課 地域おこし協力隊	青木 陽太郎	

### 3. 事業実施の概要

#### (1) 協働定例会の設置・開催

関係者が集まる機会として開催、運営した。

昨年度(平成 28 年度)は、本事業を活用し、地域課題の解決に向けての取組を推進してきた中で、協働関係に良い変化が見られ、取組に積極的に賛同する新規メンバーの参加を得られた。

その中で協働関係者は相互理解を行う場であることを意識し、本事業において実施する取組が継続的なものとなる体制の構築、外部からの問い合わせにも対応できるワンストップ窓口の形成が検討された。これについては筑北村社会福祉協議会や村役場による地方創生関連事業内ツーリズム部会で設立される NPO 法人と、これまでの事業を通じて構築された相互の良い関係性を活かして、緊密に情報共有をしながら連携を取り、本事業についてのワンストップ窓口機能も同時に担える体制づくりの可能性が検討され、持続可能な事業の実現に向けた具体的な議論が行われた。

期間の前半は森林療法トレーナー育成プログラム(ちくほく楽木プログラム)、木工製品の開発、試作についての検討、後半はフォーラムに向けた議論、今後の可能性について議論を行った。

#### ■協働定例会 ※詳細は資料 6 開催記録参照

開催日	場所	協議内容と決定事項
第 1 回 8 月 28 日 13:30~15:30	筑北村役場 会議室	1. 本事業概要の共有 2. 役割分担と日程確認
第 2 回 9 月 13 日 15:00~17:00	筑北村役場 会議室	1. 本事業の企画提案 2. 里山フォーラムについての提案
第 3 回 10 月 10 日 15:00~17:00	筑北村役場 会議室	1. 森林療法トレーナー講座(ちくほく楽木プログラム)の報告、次回の企画提案 2. 里山フォーラム日程案
第 4 回 11 月 10 日 15:30~17:00	筑北村東条 高畑伝承館	1. 楽木プログラムの報告、次回の企画提案 2. 里山フォーラムの提案
第 5 回 12 月 11 日 13:30~16:00	筑北村役場 会議室	1. 里山フォーラムについての具体的な提案、スケジュール調整 2. 次年度に向けた事業の取組方法と今後の事務局体制について
第 6 回 1 月 18 日 13:30~16:00	筑北村役場 会議室	1. 里山フォーラムについて当日のタイムスケジュール、会場設営、ちらし広報等。
第 7 回 3 月 1 日 13:30~16:00	筑北村役場 会議室	1. 里山フォーラムの振り返り 2. 今後の展開について

## (2) 協働取組カレンダーの作成

事業の目的、目標、行動計画を関係者と共有するための協働取組カレンダーを作成した。

## (3) 協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施

### ① 筑北森林療法トレーナー(ちくほく楽木隊)の育成

里山地域にとって身近なものとなるため、以下の取組を通じて、人と里山をつなぐ筑北森林療法トレーナー(愛称「ちくほく楽木隊」)を育成した。メンバーはそれぞれの分野での専門性や知識をもち、今後の事業展開において大いに活躍が期待できる人材を候補者として以下 8名選定した。

- ・ 里山保全再生活動にも取り組む福祉関係医療的ケア児とレスパイトケアの活動家。全楽木プログラムへ参加し、本事業の内容把握だけでなく、今後検討されるユニバーサルツーリズム、ヘルスツーリズムなど経済的自立に向けた事業化の中心的存在を期待できる。
- ・ 筑北村社会福祉協議会障がい者就労支援施設の施設長、ほとんどすべての楽木プログラムへ参加、森林保健活動の継続に力を入れるとともに、また筑北村による地方創生関連事業でも中心的役割を担っているため、今後両事業の連携のなかで確固たる地位を築き、ワンストップ窓口機能の事務局的存在を期待できる。
- ・ 環境教育の専門家。子ども向け自然学校、またその講師の育成などに力を入れているNPO代表。楽木プログラムでは薬草講座や森林療法へ参加、今後は筑北村のフィールドを活用した環境教育、健全児障がい児の枠にとらわれない児童館事業の実施など、児童館事業に力を入れている村との連携に期待ができる。
- ・ 障がい者や仮出所者への就労支援をしている障がい保健福祉研究活動家、今年度は楽木プログラムへの参加は叶わなかったが、定例会への参加をはじめとする本事業への賛同を得ている。フィールドを活用した社会的弱者に向けた就労支援、社会的目的の実現へと想いを共有しており、来年度はソーシャルファームの事業化を目指している。
- ・ 木工製品の製造に力を入れている福祉施設社員。木工製品開発企画会議や楽器試作プログラム、また製品化に向けた製造工程の検討会議などへ積極的に参加があった。林福連携の木工製造ラインの構築に大きな役割を担うことが期待される。
- ・ 筑北村地域おこし協力隊2名。ほとんどの楽木プログラムへの参加をした。筑北村在住であり、物理的な面でも村民に寄り添える距離であることが何より大きい。地域住民や村のさらなる参画を得るために、地域のネットワーク作りを担える重要なポジションが期待できる。

- ・筑北村在住の村唯一の薬剤師。薬草講座と楽器づくりプログラムに参加。薬剤師であることから薬草など健康づくりに対しての知識が元々あり、今回楽木プログラムで講師として招聘したチベット医の小川康氏とも今までに筑北村で薬草講座を開催していたとのこともあり、村民の健康促進にもつながる本事業への関心も非常に高い。今後は地域住民また外部へ向けた薬草講座など、本事業との連携を図りながら楽木プログラムの講師としての参加が期待できる。

## ②森林療法トレーナー育成に向けた意見交換会および勉強会の実施

森林療法トレーナー(ちくほく楽木隊)育成プログラムの参考とするため、他地域での取組と本事業の取組を実地で相互参照を行った。信濃町アファンの森・森林メディカルトレーナーの高力氏、河西氏との意見交換会を行った。意見交換の内容は下記のとおり。

### 【参考にするべき点】

信濃町での地域の山林活用の様子から、子どもたちの環境教育や自然体験のフィールドとして有効活用することや、村で進めている薬草事業などと組み合わせて森林療法を住民の健康づくりに役立てていくことができる。村政の課題解決や魅力的な村づくりに向けた参考点として大きな可能性を感じた。

開催日	内容	講師・参加者
12月1日 9:45~16:00	『癒しの森を中心にしたまちづくり』に成功している信濃町の事例を学ぶ。 ・信濃町森林メディカルトレーナー高力氏、河西氏による森林セラピー体験と講義、意見稿交換	高力氏、河西氏、他9名



### ③筑北森林療法トレーナー育成プログラム(ちくほく楽木プログラム)の実施

筑北森林療法トレーナーの役割は、村民を対象とした健康増進サービスの提供や、都市住民を里山に受け入れる際のインタープリターである。育成プログラムの内容については、各回とも講師の助言・参加を得て行った。詳細は下記のとおり。

ア 薬草講座：里山の価値の見直し、活用、宝探し。

地域の参加者からのニーズの引き出し、また村で進めている薬草事業などと連携して森林療法的健康づくりに役立つ知識を習得した。

開催日	内容	講師・参加者
10月1日 9:00~12:00 13:00~15:00	・小川康氏(薬剤師、チベット医)を招聘し、午前中里山歩き、薬草探し、講座、午後は座学、ワークショップ(採取したアカネの根で染色体験)	小川氏 他 14名



イ 樹林気功：里山の価値の見直し、活用、宝探し  
 森林療法的健康づくりに役立つ知識を習得した。

開催日	内容	講師・参加者
10月6日 13:30~16:30	・藤田雅子氏（樹林気功師）を招聘し、樹林気功体験。	藤田氏 他14名
10月7日 9:30~11:30	・藤田雅子氏（樹林気功師）を招聘し、樹林気功体験。	藤田氏 他2名

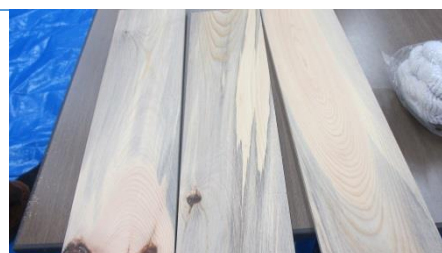




## ウ 楽器づくり

里山の価値の見直し、活用、宝探しを行い、楽器を通して里山の魅力を感じ、地域の共有財産である里山に近しいという感覚、感性を育む場とした。

開催日	内容	講師・参加者
11月10日 9:00~12:00 13:00~15:00	・松本雅隆氏(ロバの音楽座代表)を招聘し、 イタールの作製、演奏会。	松本氏 他 25名



#### ④森林療法ニーズ調査の実施

トレーナー育成のためのプログラムの作成や、今後、育成されたトレーナーの活用方法についての検討を行った。

開催日		内容	取材者
7月15日 11:00~12:30	松本養護学校父兄 (松本氏岡田地区ヤ マト牧場)	■目的 事業説明と、ヒアリング協力依 頼、森林療法についての意見を聞 く	原、川本
7月26日 10:00~11:00	北原国際病院 田村施設長、浜崎企 画室長、降旗克弥 (松本ヘルスラボ専 務)	■目的 事業説明と、ヒアリング協力依 頼、 森林療法についての意見を聞く	岩間、和栗、 細田(筑北村 企画財政 課)、宇都、 原
12月5日 12:00~14:00	ウェルフェアトレ ード・フォレスト~福 祉と社会を結ぶエガ オとご縁の森(東京 大崎ゲートシティ)	■目的 事業説明と、ヒアリング協力依 頼、 森林療法についての意見を聞く	原

【森林療法ヒアリングレポート】

森林療法ニーズヒアリングシート①			
訪問先	松本養護学校保護者	日時: 2017年7月15日 11:00~12:00	
場所	松本市岡田地区ヤマト牧場	取材者: 原、川本	
<p>■目的 プロジェクトの説明と、ヒアリングへの協力依頼、森林療法についての意見を聞く</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然の中に入る機会がないので、そのような場を作ってくださいとはとてもありがたい。</li> <li>・子ども室内より屋外、それも街中よりも森林があるようなところのほうが伸び伸びするように感じる。</li> <li>・学校ではなかなか自然の中に連れて行ってもらえない。</li> <li>・音楽も子どもたちは大好きなので、音が奏でられる、あるいは演奏を聴くことができるのはとても良いプログラムだと思う。</li> <li>・動物(馬)にも、こんな間近で見たり、触れたりできることはないので、怖いと感じるときもあるが、とても良かった。優しい目の表情や体温を感じられた。</li> </ul>			

<b>森林療法ニーズヒアリングシート②</b>		
訪問先	北原国際病院	日時:2017年7月26日 10:00~11:00
対象者	田村施設長、浜崎企画室長、 降旗克弥(松本ヘルスラボ専務)	取材者:和栗、岩間、細田(筑北 村企画財政課)、宇都、原、
<p>■目的 プロジェクトの説明と、ヒアリングへの協力依頼、森林療法についての意見を聞く</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者(脳外科手術後のリハビリ、精神疾患)向けに、森林内での活動や農作業、動物との触れ合いなどを取り入れてきた当病院。</li> <li>・医療とは生活総合産業という理念は、大変共有できるもの。このままでは地方自治体の財政が破綻するという危機感の下、様々な住民向けサービスも展開。</li> <li>・これまでは山梨県内のフィールドをお借りして、開拓セラピーなるものを患者さんたちと取り組み、フィールドが見違えるように変化し、明るい環境になることで、自信につながったり、リハビリを頑張ろうという意欲につながったり、そして社会復帰を果たしていくという姿を見てきた。土に触れる、自然の中で呼吸をする、仲間と力を合わせてやり遂げる、そのようなことが人に生きる力を与えることの効果を実感。</li> <li>・しかしながら、現在はそのようなフィールドがなく、探している状況。</li> <li>・筑北村という立地や交通の便は、病院のある八王子から、車でも電車でもアクセスが良く、ちょっとした旅行気分にもなれる距離であり、リハビリプログラムをともに考えていくことは病院としてもありがたい。</li> <li>・協働でできることを検討したい。</li> </ul>		

<b>森林療法ニーズヒアリングシート③</b>		
訪問先	ウェルフェアトレード・フォレスト ～福祉と社会を結ぶエガオとご縁の森～	日時:2017年12月5日 12:00~14:00
場所	東京都大崎ゲートシティ	取材者:原
<p>■目的 プロジェクトの説明と、ヒアリングへの協力依頼、森林療法についての意見を聞く</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児たちはとにかく行き場がない。</li> <li>・自然の中で遊べる場所、受け入れる体制(安全性、設備)が整っていれば、行きたい家族は多い。</li> <li>・自閉症の子だけを対象にすると、大勢の中で自分の居場所が見つけられなくなったりすることでむしろ不安定になる子もいるので、難しい。</li> <li>・健常児と障がい児とあえて分けることなく、誰でも受け入れられるといい。それが可能になるのが自然の中で取り組む利点だ。</li> <li>・子ども(発達障がい児)が高校生なので、そろそろ仕事のことを考えなくてはならず、自然の中での仕事ということで林業には興味を持っていた。</li> <li>・発達障がいの子供は増えており、先生の専門教育が必要だが、むしろ先生に対して森林療法を受けてもらった方がいいのではないかと。</li> <li>・アメリカの発達障がい児教育では、自然を活用する方法が多く採用されている。</li> </ul>		

### ⑤野外教育活動との連携

筑北村村内における認知度・理解度の向上及び村民の里山への関心の高まりを促すために、村内で行われる野外教育活動(村が児童館と連携して行う自然体験等)に対して、整備した里山の空間の提供や、プログラム実施に際しての必要な知見・ノウハウの提供等、積極的な協力を行った。

また、筑北村社会福祉協議会(以下「社会福祉協議会」と言う)の障がい者自立支援センター「ちくほっくる」の利用者の方と山の手入れを中心とした森林保健活動を行った(20回)。

#### ア 自然体験教室(にこにこ土曜楽行)

開催日	内容	参加者
6月10日 9:00~11:35	本城東条高畑 はじめの会、講師紹介、自己紹介、注意事項、危機管理、トイレの説明、自由あそび	小学生17名 大人17名
7月8日 9:00~12:30	本城東条高畑 ロープやのこぎり、ナタを新アイテムとして追加。	小学生19名 大人13名
9月2日 9:00~12:30	本城東条高畑 アウトドアクッキング体験	小学生16名 大人10名
10月14日 9:00~15:30	本城東条高畑 ネイチャーゲーム、自然物での製作活動	小学生17名 大人10名
11月25日 9:30~11:35	本城東条高畑 自然物でクリスマスリースづくり	小学生17名 大人10名



イ 筑北村社会福祉協議会 障がい者自立センター「ちくほっくる」森林保健活動

開催期間	頻度	場所	参加者
2017年7月7日～	毎週金曜日 10:30～ 12:00	筑北村東条高畑杉林 整備面積：約60㎡	障がい者区分 3～5(中重度) 知的障がい者 1～3名・・・

**【内容】**

- ・2018年1月19日現在まで計20回(内、ワークショップ1回、余暇活動1回)実施する。
- ・作業区画を青色のすずらんテープにてゾーニングし、枝を種類ごとに分別し、視覚構造化を行ったうえで作業する。作業区画は定期的にスタッフが作業区画を拡げていく方法をとった。
- ・対象者は森林療法以外の活動も含めて前日に活動を提示、本人選択をしてもらった。

**【作業・医療内容】**

- ①下草刈り：のこぎり、剪定ばさみを使用し下草、小枝を切る。
- ②枯草運び：枯草や枝などを決められた場所まで運搬する。
- ③お茶場づくり：丸太を集めてお茶場を作り、作業の合間、終了時にお茶の時間を持つ。
- ④レクリエーション：焼き芋会を開催(秋)する。

**【記録方法】**

活動の様子、作業時間、言葉の入りやすさ、コミュニケーションについて5段階評価を行い、活動前、活動後の本人の行動を記録する。

**【対象者の様子】**

- ・活動開始2か月たったころ、本人から「たのしい」「おちつく」との話があった。その後も森林療法活動を選択し続ける。作業中は笑顔が多くみられるほどになった(M・Sさん)
- ・楽器作りに参加し「イタール」を制作。集団の中だったが混乱することなく楽しめていた。

**【今後の課題】**

- ・中重度知的障がい者合計9名中3名はほぼ毎回の活動として認識して楽しく活動に参加することができたとともに、良い状態変化が見られた。
- ・その他のメンバーの一部は興味を示さない、活動が見通せず怒ってしまう等の反応が見られる場合もあった。特性に応じた情報提供および導入方法が必要であると思われる。
- ・フィールドの状態から健脚の利用者のみの活動となり、歩行に不安がある場合、車いす利用の場合の利用者の参加場面を設定することができなかった。

枝をのこぎりで切り、一本にしている様子



木を集めている様子



ハサミで枝を切っている様子



イタールづくり



## ⑥経済的視点を含めた自立可能性の検討

本取組を継続的に実施するための体制の構築に向けて、経済的視点を含めた自立可能性について検討した。

### ア 木工製品開発企画会議の実施

間伐材の利活用の可能性及び本取組の継続的な体制構築の検討の為、間伐材を用いた木工製品の開発についての会議を3回行った。

企画会議においては、製品の開発・販売活動を通じた地域住民(特に福祉施設の利用者)の経済的自立の一助となる方策について議論を行うほか、木工製品を1種類程度試作し、具体的な製造工程の検討も行った。

開催日	訪問先	内容	取材者
2017年 6月29日 10:00~11:00	エルサポートパノラマ (松本市沢村)	本事業の説明、福祉施設内での木工作業の現状と課題把握	田井中、岩間、和栗、青木、原、川本
2017年 7月20日 10:00~12:00	カスタネット工房 (群馬県みなかみ町)	ジャンルを楽器に絞った木工製品開発の可能性を探る。 福祉施設までの作業工程が可能かどうかの検討	田井中、岩間、和栗、岡本、原、川本
2017年 11月7日 9:00~11:30	ロバの音楽座 (東京都立川市)	本事業の説明、楽器づくり、音楽によるウェルフェアの実現に向けて、協働の可能性を探る。 筑北村ならではの楽木プログラムの相談。	原、長谷部 (株)柳沢林業 財務顧問)



<b>木工製品開発企画会議(1)</b>		
訪問先	エルサポートパノラマ	日時:2017年6月29日 10:00~11:00
対象者	高山勝好氏	取材者:田井中、岩間、和栗、青木(筑北村地域おこし協力隊)、原、川本
<p>■目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林福連携による木工製品の開発に向けての関係者顔合わせ</li> <li>・福祉施設内での木工作業の現状、および課題把握</li> </ul> <p>■内容</p> <p><b>視察先の決定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉向け、子供向けの国産材による優れた木工製品が少ないという声。</li> <li>・福祉向け、子供向けを分けず、どちらの用途でも受け入れられる製品は。</li> <li>・振動するもの、音が出るものなどは脳の発達にも効果がある。</li> <li>・上記の意見を受け、田井中氏より提案。群馬県赤谷の森プロジェクトの中で、その森の整備によって伐採された木を使い、カスタネットを作っている。小さな工房で製作されており、シンプルな工程なので、参考になる点があるのでは。</li> <li>・翌月にカスタネット工房の視察に行くことを決定。</li> </ul> <p><b>作業所内見学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木工機械もあるが、作業者は主に手作業でできる工程を担っている。</li> <li>・治具を作るときもあるが、現在は簡単な作業、例えばヤスリでひたすら磨く、などの工程に従事してもらっている。</li> <li>・東京のお店からの依頼で作製している商品が多く、売れるものではあるが、追われることも多く、できれば自社商品を開発したい。</li> <li>・いろんな商品を試作してみたが、強みにできる商品につながっていない。</li> <li>・クラフトフェアなど見ると大量生産は必要なく、一点ものでいいとわかる。木は一点もの、人もオンリーワン。そういう商品にしていきたい。</li> </ul> <p><b>スローレーベルの紹介</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田井中氏よりスローレーベルの紹介。</li> <li>・アーティストであるクリスさんが作業所でできることを見ながら、ものづくりを考えている。アーティストと福祉のいい連携であり、商品としてもデザイン性等レベルの高い仕上がりであり、一点ものの良さをうまく見せている。</li> <li>・NPOスローレーベルとの連携も検討したい。</li> </ul> <p><b>里山フォーラムに向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筑北の真っ暗な夜を活かして、100万ドルのキャンドルナイトというアイデアはどうか。</li> <li>・豊科の施設でアロマキャンドルを作っている。</li> <li>・開催時期が秋であれば、森のハロウィーンというイメージでコンサートも開催すれば。</li> </ul> <p><b>前年製作の木馬について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松枯れ材の活用という意味においても、アオカビの自然の造形を活かした。</li> <li>・使用者に合わせてカスタマイズが可能。</li> <li>・自ら動けない子が、木馬に乗ると揺られることで動くことが可能になる。</li> <li>・今のデザインだと構造的に強度が劣るので、課題はある。</li> <li>・できればオリジナル商品として展開していきたい。</li> </ul>		

<b>木工製品開発企画会議(2)</b>			
訪問先	カスタネット工房(群馬県みなかみ町)	日時:2017年7月20日	
		10:00~12:00	
	富澤健一氏	訪問者:田井中、岩間、和栗、岡本(4cycle社員)、原、川本	
<p><b>■目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンルを楽器に絞った木工製品開発の可能性を探る。</li> <li>・福祉施設での作業工程で叶うものがあるかどうか。</li> </ul>			
<p><b>■内容</b></p> <p><b>材木の調達</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来の目的が赤谷の森の整備。その整備から出てきた材をプロジェクトの資金にもつながるように、活かした商品としてカスタネットを製作している。</li> <li>・整備で出てくる材は基本的に間伐材。木工品を作るには品質レベルが低い。製材所に相談して、なるべくいい板材を納材してもらっている。</li> <li>・樹種についても選べるわけではなく、整備のために出てきた材をなんでも使っている。</li> </ul> <p><b>木工機械</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械はそのほとんどが、自作。カスタネットを作る機械が売られているわけではなかったため、親父の代からすべて工夫しながら機械からして作った。</li> <li>・苦労というわけではなく、単純に、「なければ作ればいい」という発想。</li> <li>・しかしそれを可能にする器用でありかつ工夫が大好きな富澤氏。</li> </ul> <p><b>楽器の可能性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「単純な動きで音が出る」ということが求められる。</li> <li>・難しく考えなくても木をそのまま並べて長さだけ調節すれば木琴になる。</li> <li>・山の整備で出てきた材を使うという発想で進めたい。</li> <li>・音楽で人は楽しくなれる、多様な人が音楽で一つになれる。</li> <li>・音楽の原点に戻れるような楽器づくりをしたい。</li> </ul>			

木工製品開発企画会議(3)		
訪問先	ロバの音楽座	日時:2017年11月7日 9:00~11:30
	松本雅隆氏	訪問者:原、長谷部(柳沢林業 財務顧問)
<p>■目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雅隆氏らのビジョンや想いをお聞きしながら、楽器づくり、音楽によるウェルフェアの実現に向けて、協働の可能性をさぐる。</li> <li>・筑北村ならではの、楽木プログラムのプロデュース相談。</li> <li>・楽器づくりのアイデアをお聞きする。</li> </ul> <p>■内容</p> <p><b>ロバの音楽座について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小諸市にある読書の森と長いお付き合い。</li> <li>・都内の廃校で行っていた子供たちとの楽器作りが継続が困難になったころ、読書の森の存在を知り、それ以降、そのプロジェクトは読書の森で続けてきている。</li> <li>・楽器を作って終わり、という工作教室にするのではなく、そのあと作った楽器を演奏しながら、参加者全員でお祭りをするのが目的。</li> <li>・古楽器から学ぶこと。決まった形でなくていい。手に入りやすい材料を使う。様々な音を作った楽器と自分自身の体で奏でながら、その多様性の調和を奏でることがお祭り。</li> <li>・建物内のあらゆる手作り楽器を見ながら、音が出ることの楽しさを再発見。</li> <li>・なんでも楽器になる。「あるものを活かす」という理念に合致。</li> </ul> <p><b>楽木プログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽木プログラムの一つとして、雅隆さんを講師に招き講座を開催してみる。</li> <li>・イタールという弦楽器を作ってみよう。</li> <li>・単なる木工製品として商品を作るのではなく、作る工程、そして完成品による演奏会までを含めた楽木プログラムとしての商品という展開の可能性。</li> </ul>		

イ 木工製品の開発・販売に係るニーズ調査

教育・福祉施設等を対象として、取組について理解と協力を得た上で、木工製品の開発・販売にあたり、製造工程の検討に係るヒアリング調査と、試作品の使用状況に係るヒアリング調査を行った。

<製造工程の検討に係るヒアリング調査>

開催日	訪問先	内容	取材者
2018年 2月5日 10:00~11:00	就労継続支援(B型)施設 マーメイドタバン 元町(松本市元町)	■目的 事業説明と、ヒアリング協力依頼。	田井中氏、高山氏、原、川本
2月5日 11:00~12:30	(有)柳澤木工所 (松本市庄内)	■目的 事業説明と、ヒアリング協力依頼。木工製品の開発についてのヒアリング	田井中氏、高山氏、原、川本

i) 製造工程の検討に係るヒアリング調査①			
訪問先	マーメイドタバン元町(就労継続支援B型施設)	日時: 2018年2月5日 10:00~11:00	
対象者	中村一芳氏(所長)	取材者: 高山、田井中、原、川本	
<p>■目的 プロジェクトの説明とヒアリングへの協力依頼 施設での木工製作の可能性を聞く</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具は必要になったら揃える(購入すること)にしている。</li> <li>・ほとんどはスタッフが作業を行い、利用者さんは最後の仕上げだけを行っている。</li> <li>・機械の音が苦手な人が多い。木の裂けるような音は刺激が強いと思われる。</li> <li>・木のおもちゃや楽器をつくりたいと思っていた。</li> <li>・以前作ったハンガーラックは売れた(8,000円/個)</li> <li>・仕上げ作業や、面を取り作業など、分担して作業工程が作れば良いと思う。</li> <li>・精神的障がい者の特徴は、集中力が続かない。長続きしない人が多い。</li> <li>・知的障がい者の特徴は、どちらかというと続く人が多い。</li> <li>・ジグ(治具)が大事。ジグづくりをしっかりやればできると思う。</li> </ul>			

i) 製造工程の検討に係るヒアリング調査②			
訪問先	(有)柳澤木工所	日時: 2018年2月5日 10:00~11:00	
対象者	柳澤哲夫(社長)、柳澤由香里 エルサポートパノラマ 高山勝好	取材者: 田井中、 原、川本	
<p>■目的 林福連携事業としての展開における、本職の木工所と福祉作業所の役割分担の可能性を探る。</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木工所としては愛着を持って長く使ってもらいたい。長く使えるようなものを作りたい。</li> <li>・ブルーステインに価値を付ける。色の呼び方でイメージは変わる。ブルーステインでも、海外と日本のカビでは色に違いがあり、海外のブルーステインは青がとともきれい。日本のブルーステインは少し黒味がある。海外ではインディゴやデニムウッドなどと呼ばれている。</li> <li>・木工職人は作るだけ。でもクリエイターでもある。提案していただければ作るが、コストの問題や、完成品の強度など、デザイナーとのすり合わせが非常に難しいと感じている。</li> <li>・作業工程が分かっている人が必要。どこでどのくらいのコストが掛かっているのか。</li> <li>・きれいよりも、おもしろい、楽しい。を作りたい。</li> <li>・ストーリーを大事にする商品の開発が良いのでは。半完、半製品など、作る過程に自分が参加できるなど。</li> <li>・福祉施設との協働では、磨きなど好きな人との分担は出来ると思う。</li> <li>・針葉樹・広葉樹の材質の違いや、色、音、重さなどの違いを実際に感じてもらいた。</li> <li>・そういうイベントを開きたい。</li> <li>・松枯れについてももっと現状を知ってもらいたい。</li> </ul>			

#### <試作品の使用状況に係るヒアリング調査>

今年度から参加いただいたロバの音楽座代表の松本雅隆氏の提案により、間伐材を利用した楽器づくりに焦点を絞って、木工製品を検討した。試作品として、地域のカラマツ材を利用したイタールという弦楽器を製作した。今回はトレーナー育成プログラムの講座として開催。ステークホルダーに社会福祉協議会「ちくほっくる」の利用者やその他一般参加者も交え、試作品の製作を体験したことで、木工製品として商品を作るだけでなく、製作工程や、完成品した楽器を使っでの演奏会までを含む全ての工程を参加者全員で行った。実施したことでこの工程で楽しめることが分かり、これらの工程そのものをトレーナー育成の講座として商品にしてはどうかという意見が出た。

参加者の中には教育・福祉関係者もいたため、その分野を対象とするプログラムの商品の展開の可能性についても検討した。

イタール以外での廃材を利用した楽器づくりは未知数で、今後は具体的なプログラムの内容の充実を図り、トレーナー育成プログラムとしての商品化を確立させ、事業として展開することで経済的視点を含めた自立の実現の可能性を見出した。

開催日	訪問先	内容	取材者
2017年 11月10日 15:00~16:00	ちくほく楽木プログラム ム参加者	■目的 事業説明と、ヒアリング協力依 頼。	原、川本
2018年 2月4日 15:30~16:00	里山フォーラム楽器づ くり参加者	■目的 事業説明と、ヒアリング協力依 頼。	川本

ii) 試作品の使用状況			
訪問先	楽木プログラムの参加者		日時: 2017年11月10日 15:00~16:00
対象者	取材者: 原、川本		
<b>■内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に森林にも足を運んで、材料を調達できたのが良かった。</li> <li>・木工は久しぶりだったが、工程も難しくなく、夢中になって作って楽しかった。</li> <li>・作って終わりではなく、音が実際に出てみんなで演奏ができたのが良かった。</li> <li>・もっといろいろ作ってみたい。</li> <li>・時間をかけて森林の中から材料を見つけてきたい。</li> </ul>			
対象者: 里山フォーラムの参加者		2018年2月4日	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽というものが元々は難しいものではなく、自然の木を叩いたり貝を吹くなど、そこに在るものを鳴らして楽しむという原点に返った気がした。</li> <li>・しっかり計ったりしたものより味があって楽しめた。</li> <li>・体全体で楽しめた。</li> <li>・とても楽しい演奏会だった。</li> <li>・アイディア一つでとても楽しい音になるものですね。</li> </ul>			

### ⑦里山フォーラムの開催

当日までの準備としては集客を重要課題としていたが、当日は想定していたよりも多くの参加が得られ、参加者のアンケートからも、今回の里山フォーラムをきっかけに本事業に対する興味関心を高めることができた。また多くの参加者は村外からの参加であったが、今年度は筑北村が実施している地方創生関連事業で企画されたイベントと連携して開催することができたことや、役場所属の地域おこし協力隊のメンバーの協力を得られたこともあり、多くの筑北村村民の参加を得ることができた。

しかし当初、対象者として設定していた教育・福祉関係者の参加があまり得られなかったのは課題として残る。本取組の理解を深めるための広報や、村で実施するプログラムの情報提供など、周知方法が今後の課題となる。一方で、村外の参加者の多くは本事業の活動取組に非常に高い関心を持っており、筑北村以外の方のファンを増やし、少しずつでも地域内にファンを増やすなど、多様アプローチで地域を巻き込んでいくことが重要である。

里山フォーラムの開催と、開催に当たっての準備の経過については、下記のとおりである。里山フォーラムの当日の詳細や広報用の関係書類は別添資料参照

開催日	内容	講師・参加者
9月13日	定例会にて里山フォーラムについての提案・協議	ステークホルダー
10月10日	定例会にて日程、企画内容の検討	ステークホルダー
11月10日	定例会にて日程調整、対象者や内容について検討	ステークホルダー
12月11日	定例会にて対象者、プログラム内容、会場、広報方法、ちらし作成までの段取りについて決定	ステークホルダー
1月18日	ちらし完成。定例会にて当日の役割分担、会場設営、ちらし広報、昼食提供、講師との調整、などについて協議。 参加申し込み開始	ステークホルダー
1月25日	筑北村役場にて里山フォーラム広報(プレス)対応	筑北村総務課、地域おこし協力隊、社協、柳沢林業、村民含む全9名

1月最終週	<p>参加申し込み状況の確認、村内放送、広報(プレス)、設営・備品(椅子・プロジェクター、やかん・ガスコンロ等)、会場案内板、駐車スペース、山(現地)と会場の移動手段確保、現地ワーク内容について講師と最終確認、アンケート準備、当日タイムテーブル・役割分担の最終確認</p>	<p>筑北村役場 柳沢林業</p>
<p>★当日 2月4日 9:00～15:30 (場所：筑北村役場)</p>	<p>【タイムスケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション/あいさつ/サンサン体操(9:00～9:20)</li> <li>【Aコース】9:30～12:00、13:00～15:00</li> <li>・上原先生によるワークショップ：森の散策と森の香りアロマづくり体験(9:30～12:00)</li> <li>・森林療法についての講演(13:00～14:15)</li> <li>・本事業の紹介、筑北村の紹介(14:15～15:00)</li> <li>【Bコース】9:00～12:00、13:00～15:30</li> <li>・松本雅隆氏による楽器づくり、材料収集のため神社へ、筑北村の音に耳を傾ける(現地ワークショップ)(9:30～14:00)</li> <li>・演奏会練習(14:00～15:00)</li> <li>【お昼の部】12:00～13:00</li> <li>・里山の恵みを楽しむ(昼食ふるまい)</li> <li>【全体】</li> <li>・Bコース参加者による演奏会(15:00～15:20)</li> <li>・参加者全員でサンサン体操/閉会のあいさつ(15:20～15:30)</li> </ul>	<p>54名 (一般参加者33名) (講師2名、実行スタッフ16名) (中部地方環境事務所1名、地方支援事務局2名)</p> <p>Aコース参加者：31名 Bコース参加者：23名</p>



みんなで創り守ろう、地域の里山

# 里山つオーラ

2018 inちくほく  
winter

2/4 sun  
9:00~15:30  
筑北村役場駐車場集合

選べるコース!

## Aコース

「森林療法」体験・講演会  
「ちくほく楽木隊」活動報告会

- ★ 散策しながらの“森の癒し”体験!  
森の宝物を発見できるかも!?
- ★ 木の枝や葉っぱを使った芳香水づくり  
森のアロマセラピーを体験しよう!

講師  
東京農業大学  
上原 巖 教授  
いわお

どなたでも参加OK!

## Bコース

不思議な楽器!?  
「ブーバク」作りワークショップ

- ★ 板材を使ったおもしろ  
楽器を作って演奏しま  
す!
- ★ 最後はみんなで大演奏会!

講師  
「ロバの音楽座」  
松本 雅隆 氏  
がりゅう

親子参加大歓迎!

がりゅうさん

参加費無料!

## お申し込み

とうと  
筑北村役場総務課 担当：宇都  
TEL:0263-66-2111(代表)  
Mail:soumu@vill.chikuhoku.lg.jp  
\*申し込み締め切り 2月1日(木)

詳しくは裏面へ!

環境省平成 29 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業 森も人も健康に ~筑北村 福祉の森プロジェクト~

## 【イベント広報用リーフレット】(裏面)

里山フォーラムスケジュール表(Aコース、Bコースの選択制です)

	Aコース：森林療法体験・講演プログラム	Bコース：楽器作りプログラム
9:00～ 12:00	村内を散策しながらの森林療法簡易ワークショップ&木の枝葉を使った芳香水づくり ◆会場：筑北村役場周辺及び役場調理室	「ブーバク」作りワークショップ ◆会場：筑北村役場 206 会議室
12:00～ 13:00	昼食(炊き出し)	
13:00～ 15:00	上原教授による講演会 東条高畑協働取組加速化事業紹介 ◆会場：筑北村役場多目的ホール	「ブーバク」作りつづき・演奏会に向けた音合わせ ◆会場：206 会議室
15:00～ 15:30	楽器作りプログラム参加者による演奏会	

### 【開催日時】

2018年2月4日(日)9:00～15:30

### 【講師紹介】

#### Aコース<上原巖教授プロフィール>

東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科教授。日本森林保健学会理事長。

主な研究テーマは、全国各地の放置林の再生と森林の保健休養機能について、地域の森林と人間が古くからの豊かな関係を取り戻し、共に健やかになることを目指して全国各地で里山の再生と森林療法を実践している。

#### Bコース<松本雅隆氏プロフィール>

1973年に中世・ルネサンス時代の音楽を当時の復元楽器を使って演奏する「カテリーナ古楽合奏団」を結成、

1982年には古楽器と空想楽器を演奏する合奏団「ロバの音楽座」も結成し現在まで活動中。

ジブリアニメ『ゲド戦記』の録音に参加するなど、幅広い演奏活動を行っている。

※参加費(昼食含む)は無料となりますが事前申し込みが必要です。

昼食は炊き出しがあります。ご希望の方はお申し込みの際にお伝えください。

※お申し込みの際に頂く個人情報は当事業以外の目的には利用いたしません。



### 【集合場所】

筑北村役場駐車場  
〒399-7501  
長野県東筑摩郡筑北村西条 4195

### 【お申し込み】

筑北村役場総務課 担当：宇都(うと)  
TEL: 0263-66-2111(代表)  
Mail: soumu@vill.chikuhoku.lg.jp

### 【定員】

Aコース 無制限 Bコース 40名

### 【申し込み締め切り】

2月1日(木)

### 【事業内容に関するお問い合わせ】

「ちくほく楽木隊」事務局  
TEL: 0263-87-5361(柳沢林業 川本・原)  
Mail: info@yanagisawa-ringyo.jp



WEB申し込みフォーム  
簡単に申し込みが完了します!



【主催】筑北村東条里山交流促進計画協働プロジェクト「ちくほく楽木隊」(事務局：株式会社柳沢林業)

【ちくほく楽木隊構成団体】株式会社柳沢林業、東条高畑及び周辺里山森林整備協議会、筑北村役場総務課・地域おこし協力隊、筑北村社会福祉協議会障害者自立支援センター「ちくほくくる」、NPO法人やまぼうし自然学校、NPO法人里山保全再生ネットワーク、エルサポートパノラマ、株式会社4CYCLE

【協力】環境省中部環境パートナーシップオフィス

【イベント広報活動】

(新聞各紙等への掲載状況)

掲載日	内容
1月27日	<p>◆松本平タウン情報 記事掲載</p> <p>【見出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真冬の筑北満喫しよう</li> <li>・村や社協、地域おこし協力隊などが催し</li> </ul> <p>※写真キャプション：「この時季らしい寒さも楽しんでほしい」と呼び掛ける関係者ら</p>
2月2日	<p>◆市民タイムス 記事掲載</p> <p>【見出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筑北の冬 里山で遊ぼう</li> <li>・森の整備や山仕事体験 イベント多彩</li> </ul>
2月6日	<p>◆市民タイムス 記事掲載</p> <p>【見出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の魅力と癒し満喫</li> <li>・拾った木の枝で楽器づくり</li> </ul> <p>※写真キャプション：ブーパクの材料を探す参加者</p>

(村内放送を用いた広報活動)

実施日	内容	手配
1月29日 夜	<p>・イベント日時、申込先(窓口：筑北村総務課)、交通手段など諸注意について、お知らせ</p>	筑北村総務課
1月30日 昼・夜		
1月31日 昼・夜		

開会式後、参加者全員でサンサン体操



Aコース：森林散策の様子



上原先生による植物解説



上原先生の植物収集の様子



芳香蒸留水の生成①



上原先生による芳香療法の解説



芳香蒸留水の生成②



アロマ体験



お昼の部、 食事提供



食事提供のおにぎり



Bコース：がりゅうさんによる説明



「ぶーぱく」づくり



ブーパクに使う小物集めに向かう様子



筑北村の音を聞く



参加者の作品を眺める



演奏会練習の様子



上原先生による講演会



本事業の説明(柳沢林業)



筑北村役場による取組事業紹介



本事業への思い(協議会 橋本逸士氏)



Bコース参加者による演奏会



参加者全員を巻き込む演奏会の様子



イタールの演奏会



福祉施設利用者によるソロ



閉会 参加者全員でサンサン体操①



参加者全員でサンサン体操②



参加者全員でサンサン体操③



閉会のことば(中部地方環境事務所  
村辻氏)



#### (4) 地方支援事務局への月次報告等

平成 29 年 7 月～平成 30 年 2 月の期間毎月、当該月の取組報告や課題等について、地方支援事務局に翌月 5 日までに報告した(資料 2 参照)。地方支援事務局のヒアリング等の要請に対応した。なお、ヒアリングの日程等は次のとおりである。

##### 【ヒアリング実施日等】

日にち	時間/場所	連絡先	対象者
平成 29 年 9 月 26 日	13:15～14:15 松本市民活動サポートセンター	株式会社柳沢林業	原 薫
平成 30 年 1 月 18 日	15:30～16:00 筑北村役場 101 会議室	筑北村社会福祉協議会 ちくほっくる	和栗 剛
	16:00～16:15 筑北村役場 101 会議室	筑北村教育委員会事務局 筑北村図書館 地域おこし協力隊	進藤 香織

#### (5) 3 か年の中期計画等の策定と実施事業の振り返り ※資料 3、4 参照

概ね計画通りに進んでいる。しかし、企業体が考える事業展開と、高齢者を中心とした中山間地域の住民の新しい取組に対する理解や浸透の速度はかなり異なり、事業性を見極めも図りながらどのように地域を巻き込むのか、また企業体が主導で動きつつ、いずれその主体が地域の中に生まれることの難しさを実感している。

これまでは環境省事業を活用していたため、単年度での計画に沿って進めなければという事業主体(事務局)の責任が焦りにつながり、頻繁なヒアリングや関係者との丁寧な調整、あるいはステークホルダー内での役割分担の明確化ができなかったことも課題としてはある。

今後は、この事業を通じて構築されたステークホルダーとの関係性や信頼を基盤とし、可能なところから着実に事業へと進めていかれるよう、的を絞った展開を意識し、関係者それぞれが主体的に動けるよう、調整する必要がある。

また、ネット環境などの整備が進んだ時代ではあるものの、やはりこのような地域課題への取組は、顔を見ながらのやりとりも非常に重要である。特に、協議会の会長の体調不良による代役との連絡調整が十分できなかったこと、事業主体(事務局)が村内にないということでの物理的な距離が、密な連絡の障害になっていたことも事実であり、計画通りに進まない側面であったと考えられる。



3か年の中期計画、事業の振返り等は地方支援事務局が示す様式に従い作成・提出した。

## (6) 連絡会及び合同報告会への参加

### ① 連絡会

課題の共有、事業の進捗の確認のため、地方支援事務局が事業実施地において開催する連絡会に参加した(次表参照)。

### ② 合同報告会

全国の関係者が東京に集まって開催される報告会に参加し、本年度事業の成果と3か年の中期計画等の発表・共有を行った。

### ③ その他

中部環境パートナーシップオフィスが主催する以下の会議に参加し、本事業について事例発表を行うとともに、協働取組を拡大していくための意見交換を行った(次表参照)。

ア 平成29年10月13日14日(名古屋市) マルチステークホルダーダイアログ2017

#### ■ 連絡会/意見交換会等の参加記録

開催日・場所	協議内容	協働主体参加者
<b>【第1回連絡会】</b> 7月7日 11:00~12:00 12:30~15:30 筑北村東条高畑の里山及び筑北村役場	●現地視察 ●3年間の目標を達成するための、今年度の目標設定と到達のための方策、課題と計画及び支援について	★(株)柳沢林業 ★NPO 里山保全再生ネットワーク ★筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる) ★東条高畑及び周辺里山森林整備協議会

#### ■ 合同報告会の参加記録

開催日・場所	協議内容	協働主体参加者
<b>【協働ギャザリング2018】</b> 2月17日 10:00~18:00 国際大学	●採択された協働取組事業の過程を振り返り、そのポイントを見聞きし、事業の次年度以降の継続に向けた学びを得る。 ●各事業の過程で起きた重要な事柄や、	★(株)柳沢林業 ★NPO 里山保全再生ネットワーク

「協働とは」についてそれぞれの意見を出し合い、「その時に何が起きたか」「それが何に結びついたか」等を掘下げ、対話を深めた。

## 4. 事業の評価・分析

当取組で目的として掲げた「里山の価値の見直し」と「幅広い人々との連帯づくり、関係の模索」の達成について、以下の視点から、評価・分析する。

### (1) 協働取組のプロセス

今年度も昨年度に続き、月1回ペースの定例会、2月のイベント(里山フォーラム)開催が活動の中心となった。参加した団体や人数が増加する中、関係者のネットワークが広がりを見せるとともに、事業主体のリーダーシップによる進め方から、各ステークホルダーへの役割移譲や意見に丁寧に耳を傾けたことで、全員参加の雰囲気を作り出すことができ、「信頼関係の醸成」や、「心理的なハードルの低減」、「取組や目指している方向への前向きな姿勢」が昨年度よりも高まった。

協働はステークホルダーの意思疎通が重要であるため、その面では大きな効果があったと言える。本プロジェクトのスタート時と比して、「協働のプラットフォームがほぼ完全な形で形成された」と表現することができる。

特に、協働メンバーでありながらも、関わり方としては消極的であった筑北村役場内で、本取組の認知度が向上したことは大きな成果と言える。定例会やイベントの会場として役場施設を利用できるようになったほか、役場に所属する地域おこし協力隊員の積極的な参加も得られた。

プロジェクト名である「福祉の森」がターゲットとする「福祉」の対象が広がったことも特筆に値する。初期は医療的ケア児とそのご家族を主対象としていたが、筑北村社会福祉協議会、エルサポートパノラマ(松本市の障害者福祉施設)などの積極的な参加により、身体障害者をはじめ、知的障害者、うつ病なども含まれる精神障害者、発達障害者などのQOL向上に、当取組で整備するフィールドを活用することも視野に入ってきた。これらに加えて住民の健康増進といった住民福祉面での利用も視野に入ってきた。

反面、経済効果の創出に向けて、現地林産資源・林産加工物の販売や、木工製品の商品化、現地でのヘルスツーリズム(健康回復や健康増進を図ることを主目的とした旅行)受け入れなどを検討し続けているが、生産体制や受け入れ体制の確立にはまだ時間がかかると予測される。そのため現段階では経済的な効果計測が困難である。しかしながら、ビジョとして掲げる「森も人も健康に」を追い求め続けることによって、地域住民や関係者の医療費等の低減といった効果や、ヘルスツーリズムの受け入れ(企業、個人等)による収入確保、林産物の販売収入確保につながると思われるため、やがては経済財政面での効果の試算も可能になると思われる。

### (2) 波及的影響

#### ① 地域社会

環境省事業として2年連続で採択されたことなどを通じて、村役場や村民との接点が多数生まれた。これが最も大きな地域社会への波及効果として挙げられる。

当取組で関わる地区も含めた筑北村は、少子高齢化の影響を大きく受け過疎化が進んでいるほか、地理的条件も重なって、やや閉鎖的な感情を持つ住民が多い。勢い新しい動きを積極的には歓迎しない傾向が強いが、関係者や地域住民との対話機会が増えたことで、次第に地域課題に向き合い、改善への期待を露わにする人が現れるなど、意識の変化が見られるようになった。

また、本年度は筑北村独自の地方創生プロジェクト(農林福プロジェクト)が立ち上がったが、本事業と重なる内容が多いため、一部の協働メンバーが地方創生プロジェクトにも参画したり、連携してイベント(極寒ちくほく山遊び、里山フォーラム)を開催し

たりするなど、村が実施する事業との「前向きな連携」が芽生えた点も地域社会への大きな波及効果と言える。

地域資源の活用という観点においては、現地の里山(森林)やそこに埋没していた廃材など森林資源を活用できたことが特に挙げられる。今後、ヘルスツーリズムも展開していった場合、活用できる可能性が高い施設や資源もまだまだ多くあるため、今後の展開に結び付けていきたい。また、本事業を通じて得た知見を筑北村の他地域にも投じることにより、村全体の活性化にも貢献できるものと考えている。

なお、2018年1月、本事業に関心を持つ長野県の中島副知事と面談し事業説明を行った。長野県では現在、「長野県森林づくり県民税」(森林税)の用途拡大を模索している。本事業に対して、森林税活用のモデル事業になり得るとの意見を頂いた。森林税利用への道筋が開けるとともに、本事業に対する長野県の注目が高まったことで、地域への波及効果はさらに高まったと思われる。

## ②住民生活

従来は協働定例会の参加者(山林所有者、社会福祉協議会、役場、地域おこし協力隊など)や、問題意識を持つ住民などが一堂に会して対話する機会は、ほぼ皆無であった。本事業の開始後は対話機会が格段に増加したのはもとより、協働メンバーが多様な人々(大学教授、音楽家、NPO 運営者など)と接点を持てるようになり、住民生活にも大きな変化が芽生えた。

また、本事業と当取組で整備した里山フィールドを通じて、地域の人たちが山に入り始めた点も成果として挙げられる。例えば村と児童館が開催する児童向け「にこにこ土曜楽行」の場としてフィールドが活用されたほか、社会福祉協議会も利用者の機能回復訓練を行う場として活用するなど、住民生活に役立てられ始めている。

さらに本年度に試行した樹林気功、薬草講座、楽器づくりワークショップなどを通じて、これまでは無縁だった人々のつながりが生まれた。これも住民生活上の大きな波及効果と言えよう。

視察では、本年度は森林セラピーの先進地、信濃町の視察や、間伐材の有効活用も目指した木製カスタネット工房など、これらの機会を通じて得た知見は、今後住民生活に新たな刺激と希望をもたらすものとなるよう、今後の活動に取り入れていく。このように、外部の新しい動きや進んだ取組を紹介する窓口機能が当取組により定着したことは、今後持続的に地域住民の生活福祉向上に貢献するものと考えている。

## ③地域経済

本取組と連携して、昨年度より社会福祉協議会と柳沢林業が社会福祉協議会施設利用者の就労支援に向けた検討を進めてきた。施設利用者による森林整備と薪づくりなどが今後、地域経済にどのような形で貢献するか、引き続き検討したい。

また、本事業と連携をすすめる社会福祉協議会の木質バイオマス利用によるエネルギー循環を模索する取組においては、本事業で培ったネットワークを活用することで、地域経済の活性化につなげていくことを検討している。

昨年度の木馬試作や、地域に在住する木工作家との接点創出などを通じて、里山資源の活用について、多様な可能性を見出すことができた。

ヘルスツーリズムの受け入れも視野に入っているため、今後の受け入れ体制の整備などを進める。見出した可能性を検討し、経済面での展開に活用する体制が地域の中で整ったことは、地域経済にとっても大きな意味があると考えている。

#### ④里山に対する意識

協働定例会や里山イベントなどを通じて、現地の里山(森林内)に入る機会が増えた。それに伴って里山(地域の森林)に対する住民の関心が高まった。一方で、会議やイベントに追われ、体系的かつ定期的な里山再生活動を実施する体制が構築できなかったという反省が残る。今後、可及的速やかに現地での活動体制を構築したいと考えている。

### (3)実施環境

#### ①地域の同意

活動フィールドの山林所有者からの同意を得ている。また、適宜、所有者に対しては、個別に事業説明を行ってきた。役場に対しても本事業の経過報告や、役場内への周知を併せて行ってきた。

一方で、当取組が活動を行う地区以外の住民に対しては、取組について周知が十分に及んでいるとは言い難い面がある。そのため行政と連携して、事業への同意や理解を十分に得て、今後も丁寧に取組を進めていきたい。

#### ②法手続きの状況

活動フィールドは、もともと柳沢林業が山林所有者との間で、森林整備に係る委託契約を締結している民有林であり、民間同士の法的な手続きに問題はない。また、役場からも正式な書面により、本事業への協力を得ることができている。これらに加え、村長自ら視察に訪れるなど理解も十分に得た上で本事業を実施しており、手続面での問題は生じていない。

### (4)事業の成立性

本事業のビジョンは、協働定例会、連絡会・合同報告会、里山フォーラム、長野県副知事面会などを通じて共有され、多くの賛同を得ており、事業の成立に向けた十分な手応えを感じている。

一方、継続的・長期的な視野をもって本事業を進めていく上では、事務局機能を有する事業主体を確立することが望ましいと考え、組織のあり方を議論してきた。こうした中で社会福祉協議会が中心となって、農林福連携事業を進めるための新たなNPOを立ち上げる計画が進み始めたことから、この新団体に本事業の事務局機能も委託することを検討している。

いずれにしても本事業を通じて協働のモデル性の確立、及び具体的な形での組織の基盤形成を進めることができ、今後、更なる発展を目指すために、より積極的な村の参画、村の施策への反映などを働きかけたいと考えている。

### (5)汎用性(モデルケースとしての可能性)

#### ①自然環境

我が国の国土の66~67%が森林であり、長野県の79%が森林である。85%が森林である筑北村で進めてきた本事業の取組は、日本の各地、とりわけ中山間地域に対して汎用性の高い課題であると考えられる。また、どの地域でも里山の遊休地化・耕作放棄地化が進んでいるが、里山の再生・保全に関わる人材不足に悩んでいる。このような現実が進行する中、里山に「福祉」の観点から新たな付加価値を生み出しながら、里山空間や資源を活用する試みは、全国の他地域でも導入可能な取組と思われる。

## ②歴史的背景

里山の森林は、主に戦後の拡大造林によって改変された計画的な造林地と、かつては薪炭林などとして活用されていた広葉樹林により成り立っている。広葉樹林は昭和30～40年代の燃料革命によって役割を失ったために放置された場所が大半である。

従って現在、里山所有者の大半を占める70～90歳代の人々の中には、かろうじて里山が活用されていた時代を知る人が多い。実際に当地区でもかつての様子を語り始める所有者がいた。そして「過去の環境やにぎやかさを取り戻したい」と口にするのを聞く機会もあった。時代の移り変わりによる里山の荒廃は日本全国の里山に共通することであり、森林の利活用を進めることで、かつての環境を取り戻す取組は、各地のニーズとも合致し、とても汎用性が高いと思われる。

## 5. 協働取組を加速化する手法、要因、留意事項等

---

### 【新しい協力者の参画】

ステークホルダーとして、新たにやまぼうし自然学校、ソーシャルファーム松本、エルサポートパノラマ、3者の参画が得られたとともに、デザイン企画会社(株)4cycleの社長、田井中慎氏の協力が得られたことは、今年度の協働加速化に大変いい影響を与えた。3者の参画については、イメージが先行しがちであった事業見通しについて、実際的な活動をされている団体であることから、連携による具体的な形での展開可能性を得ることができ、また田井中氏の協力については、これまでのステークホルダー内では持ち合わせない全く異なる視点を持たれた異業種の方であり、事業展開に弾みがつかなかった状況から、一歩抜け出すきっかけになった。実施していくにつれて期待感の高まりが感じられるようになった。

具体的には、田井中氏の提案・導きにより、筑北村森林療法トレーナープログラムという名称から、地域住民の関心を引き出すことや活動への親しみやすさを増すための「ちくほく楽木プログラム」という愛称がつけられた。そしてプログラムを進める人材として「ちくほく楽木隊」の名称も考えられ、森林療法トレーナーという固いイメージから「木と森を楽しむための伝道師を育てる」というわかりやすい印象を持たせることができた。以降、地域おこし協力隊の方を中心として、「ちくほく楽木隊」候補生が増えた。

### 【地域おこし協力隊の参画】

一年目には得られなかった地域おこし協力隊のメンバーの参画をえることができ、地元住民と近い位置で活動をしている彼らが参画してたことによって、これまで非常に難しかった地域住民の関心を引き出す手がかりを得ることができた。最終的にはわれわれが目指す目標に近づける必要性はあるのだが、そこに向かうためにも、現時点で地域住民が何を求めているのか、どのような入り口を設ければとっかかりをつかみやすいのか、生の声を日常的に耳にしている地域おこし協力隊のメンバーからのアドバイスが非常に有効であった。

また、村独自の事業に発展していく可能性が大いにある楽器づくりを中心としたプログラムは、ロバの音楽座との出会いがあったからこそ生まれたものであるが、ロバの音楽座の紹介は、今年度から筑北村に来られた協力隊のメンバーである。長野県出身であり、幼少期よりロバの音楽座の楽曲に親しんでいた。得意分野である音楽という要素を取り込めたことは、里山フォーラムでの彼の主体的かつ積極的な関わりにつながっており、それぞれの特技を生かした展開がいい結果をもたらすという確信を得ることができた。

### 【リーダーシップから、SHの主体性に】

当初、事業主体である弊社が「引っ張っていかなければ」という義務感から動き過ぎてしまったところがあったが、その進め方にも限界があり、実際息切れし始めていた。その

ような状況の中で、ステークホルダーから協力を申し出る声かけを得ることができ、「協働」取組であるという点を再認識することができた。その後は、各ステークホルダーがそれぞれ得意とする役割を見出し、分担をすることとした。

リーダーとしての周囲を巻き込み、説得する役割を事業主体、各自のフィールドではリーダーとして活動している協働メンバー(NPOの代表や、社会福祉協議会・役場のキーマンなど)がフォローする役割分担が自然に行われるようになった。前向きな対話が増加した上に、実行力の伴うチームが形成された。

定例会においても、一番発言の少なかった協議会のメンバーから活発な意見が出されるようになり、みなで作り上げていくという雰囲気醸成されていった。その集大成である里山フォーラムでは、直前まで集客が芳しくなかったが、メンバーの意識が高まり、それぞれが可能な限りの声かけをし、結果開催に理想的な人数の参加者を得ることができた。これはまさにステークホルダー全員が主体性を発揮した証である。

本年度の最後には、「筑北村の里山で各自のやりたいことを実現するためのプラットフォームが形成された」と表現できる状態となり、「里山の活用度を高められる提案ならば、みんなで実現に向けて取り組もう」という前向きな姿勢で活動する協働体制が育まれたのではないかと考えている。

### 【現場現地でのワークショップ等の実施】

定例会にて意見を交わすことも必要だが、机上で頭や言葉だけでイメージできることに限界もある。現地で体を動かすことや先進地を実際に訪ねて、より具体的なイメージを湧かせることがステークホルダーの納得性にも重要である。楽木プログラムという名前ができただけでなく、プログラムとして3つのWS(薬草講座、樹林気功、楽器づくり)を実施し、先進地への視察など楽木隊への参加が促され、ステークホルダー内での理解が深まった。

### 【講師陣と里山フォーラムを通じての加速】

ステークホルダーの献身的な声掛けにより、理想的な人数の参加者を得ることができた里山フォーラムだが、直接、専門家であり人間的にも魅力的な講師の方に出会うことで、参加者の取組に対する理解は格段に深まった。参加者へのアンケートからも満足度が大変高かった。その満足度は、当日ステークホルダー全員が実際に参加者の方々の楽しむ姿や笑顔を通して感じることができ、自ずとステークホルダーの手ごたえにもつながった。

本事業の特性から、今年度はイベント性が高く、且つ行政色の濃い内容で実施されたが、少しハードルを下げ、楽なスタイルで定期的な開催ができれば、地域の方がより参加しやすい企画にすることができる。「笑顔のあるところにはひとが集まる」という実感から、今後の広がりも期待できる。

里山フォーラムは初年度と本年度の2回開催したが、学習会的な要素が強かった初年度と異なり、本年度は森林の持つ力をしっかりと学ぶコースと、森の木などから楽器づくりを楽しむコースに分けて開催した。結果的には多様な人が参加する「ちくほく楽木隊」にふさわしいイベントとなり、学術的な面をしっかりと抑えつつ、里山での遊びも手を抜かないという、「ちくほく楽木隊」のコンセプトを広く周知するイベントにもなった。



このようなイベントは従来の筑北村では実施されておらず、本取組で里山活用の担い手とも言える「ちくほく楽木隊」の隊員を増やすことも重要なミッションであるため、来年度以降の開催を検討する。

### 【子どもを中心として】

課題の一つである地域住民の参画を促すこととして、子どもを中心とした企画は非常に効果が高いと感じた。今年度より実施した村の児童館事業では、高畑のフィールドを活用して土曜日の野外活動が展開されたのだが、協議会のメンバーであるフィールドの山林所有者が、自発的に子どもたちとともに現地に足を運び、自ら遊具を作製したりと一緒に遊んで里山を楽しんでくださった。

「村民にとって疎遠になってしまっている里山を、協議会メンバーの世代が子どもの頃に日常的に遊んでいた空間に戻し、今の子どもたちが安全に自由に出入りできる遊び場にしていきたい」。このことが本取組の当初からの目標の一つであり、特に地域の山林所有者の方が望んでいたことだった。それは誰もが実体験としてある子どもの頃の記憶により実感を伴ってイメージができ、数少なくなっている子どもたちが地域の宝であるという意識とともに、村民の関心を大いに引き出すものなのだと改めて感じている。

### 【長老の死】

高齢化率の高い地域にて本取組のような事業を進めようとするれば、必ずと言っていいほど地域の「長老」との関わりがある。特に山林については、70代後半以上の世代の林業に対する理解や評価、期待が高いことを、林業を担う中で感じていた。本取組においても、その世代の長老2人の鶴の一声が、面倒なことを厭う山林所有者をまとめ、本取組の中心に位置する若い世代に発破をかけた。

その長老2人が昨年暮れから立て続けに病に倒れ逝去された。協働メンバーにとっては悲しい出来事ではあったが、「故人の思いを受け継ぎ、事業を継続して成功に導こう」という思いを協働メンバー全員で共有することができ、来年度へつなげていこうという、今のこのタイミングへのさらなる結束力につながっている。

### 【発信し続けること】

本取組については、これまで様々な場面で紹介する機会に恵まれている。ステークホルダーの活動報告であったり、講演であったり、取材を受けたことや事業主体のブログに挙げたことなどである。それは自ずと多くの方の目にとまり、耳に入ることとなり、結果的に外からの注目を集めることにもなった。もちろんそれは成果を求められるというプレッシャーにもなるのだが、その都度、本取組に対する関心の高さを感じ、また、協働体制の構築についての高い評価を受けることで、ステークホルダーのモチベーションの向上につながった。

本事業を通じて活動を持続してきたことにより、長野県副知事への活動報告、あるいは今後予定されている林野庁からのヒアリング等、具体的な成果につながっており、地域課題を協働で解決する取組として、広く地域内・外に発信できるモデル的な取組であり、時流の先を行くものであるという自信をもたらすものとなっている。

□資 料

(資料—1)協働取組カレンダー

(資料—2)月次報告

(資料—3)中期計画(簡易版)

(資料—4)中期計画(詳細版)

(資料—5)会議・協議 議事録

(資料—6)第6回、第7回定例会資料

(資料—7)里山フォーラム アンケート調査結果

<p>事業名: 森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～</p>	<p>記入日: 平成29年7月4日</p>	<p>記入者: 原 薫 (柳沢林業)</p>
<p>①この取組がどうして必要なのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在表面化している問題は空にか</li> <li>・猟師以外に山林に入る人はなく、集落の裏山に位置する里山は荒廃の一途をたどっている。山林についての相続も境界を確定できないまま進み、森林整備が遅れる原因となっている。</li> <li>・放置した場合にどのような問題が生じるか</li> </ul> <p>このような里山の荒廃は地域の過疎化高齢化を加速させることにもつながっており、農業が主体の村は未来の展望を描けないでいる。また人の関与によって保たれていた日本における生物多様性も乏しいものとなっていき、地上部の成長に伴って倒木も発生しており、山地崩壊の恐れもある。</p>	<p>②この取組でどのような状況の達成を目指すか</p> <p>地域資源である里山、つまり山林と田畑から得られるものを空間も含めてすべて活かす産業を生み出すこと。つまり、老若男女・障がい者も健康者も子育て中のお母さんも定年後のシニア世代も社会的弱者も、あらゆる人が役割を持ち、関われる仕事をづくり、その仕事を通して村民がみな健やかになり、結果作られた美しい里山の風景とそこで営みにより、訪れる人も豊かになれるような地域づくりや本物の観光が実現すること。</p>	<p>③この取組で具体的に何をどのように行うのか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 森林療法、薬草、樹林気功、古武術などの多様な専門家によるワークショップを開催する。里山再生や健康づくりに関心を持つ外部人材や地域住民を巻き込み、新たな主体的協働メンバーを構やし、地域の理解を深める。</li> <li>2. 森林療法専門家、森林を活用した人材育成専門家を招き、筑北村の里山生かしたプログラムづくりに向けて検討会を開催する。目指すは「森と人との橋渡し(仮称)」の育成。保健休養林活用として県内の先進地である信濃町の方との意見交換会も行い、新たな森林価値の創造のための県内連携も図る。</li> <li>3. 経済的自立可能性の検討～木工製品の開発・試作～</li> <li>4. 自生する薬草専門木についても知識を高め、民間療法として知識の定着を促す。村が進める野外保育・野外教育については、フィールドやノブハウやプログラムの提供を通じて協力する。</li> <li>5. 保健休養林づくりに関する勉強会の実施</li> </ol> <p>森林整備により明るい里山の空間を提供しながら木材の生産に取り組み一方、その成果が保健休養林や企業向け人材育成に相応しい山づくりとしても評価されることを目指し、専門家とともにその考察を行い、林業の新たな価値としての位置づけを確立していく。</p>
<p>④事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか</p>	<p>⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどのようなものの変化しているか</p> <p>それぞれのステークホルダーを中心メンバーとしたプロジェクトを動かす新しい協働体の発足</p>	<p>⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳沢林業: 経営理念「山と人とが生かしかされる。豊かな暮らしの創造」の実現。</li> <li>・筑北村協ちくほつくく: 障がい者の活躍の場としての農林業の新たな可能性を具現すること。</li> <li>・里山保全再生ネットワーク: 里山に新たな社会的価値を付加すること。</li> <li>・地域協議会: 魅力ある地域を創造しつつ、里山との関わりを取り戻すこと。</li> <li>・やまほろし自然学校「地域」のこともたちが「継続して自然の中での活動」することによる変化を観察し、効果の確認をすること。また障害児も含めたプログラムの開催地の拡大。</li> <li>・ソーシャルファーム松本: 少年刑務所仮出所者の就労支援につながる林業プログラムの実施。</li> </ul>
<p>⑦この取組を進める上での課題は何か</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 村に関係する医療者(村内医師、産業医、保健師など)の関心を得ること。</li> <li>2. 村役場や地域住民の理解を得ること。</li> <li>3. 各ステークホルダーが継続できるための自立した形を早めに構築すること。</li> <li>4. フィールドへの車両のアクセスを可能にする道の開設を実現すること。</li> <li>5. 筑北村ならではの地域性に特化した森林サービスや商品開発を心がけること。</li> <li>6. 情報共有の徹底と、個人の負担を減らすこと。</li> </ol>	<p>⑧この取組を進める上で課題にどのように対応するか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長野大学や北原国際病院の協力を得て、アセスメントスケールの作成や検証結果のエビデンスを積み上げていく。</li> <li>2. 説明会の開催や広報手段工夫して、地域住民にわかりやすく発信していくと同時に顔の見える関係性を築く。</li> <li>3. 迅速な事業化が実現できなくても、今年度のニーズ調査により、資金の調達が可能になる計画が立案できるデータを得る。</li> <li>4. あらゆる方法を考える。</li> <li>5. 筑北村ならではの地域性に特化した森林サービスや商品開発を心がけること。</li> <li>6. 役割分担の明確化。必要あれば必ず会って確認をすること。思い込みの排除。できるかぎりみみまで協力できるような声掛けを心がける。</li> </ol>	<p>⑨この取組をどのように継続させるか</p> <p>⑦⑧の3にも挙げているが、経済的自立を図れる事業化が継続のポイントではあるが、もう1、2年は補助金・助成金が必要かもしれない。申請直前になって合わせるのではなく、今から照準を絞って準備を進めていく。</p>

(資料—1) ■協働取組カレンダー ②事業スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協働取組加担事業者との協働事業実施(予定)		第1回懇話会(キックオフ)								
		フィールドの懇話会および人的サポート								
↑										
児童福祉事業										
里山フォーラム						里山フォーラム開催				
木工製品販売		木工製品販売			試作品セーリング					
定例会		第1回定例会		第2回定例会						
森林療法関係										
木工製品販売										

(資料—2) 月次報告

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	8月5日	
事業名	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～)			
団体名	株式会社柳沢林業			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input type="checkbox"/> 実践する <input checked="" type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	7月7日(金)	第三者視点での事業評価と、他事業の事例から学ぶ	【第一回連絡会】 場所: 筑北村東条高畑の里山および筑北村役場 ◆現地視察と成果報告に対する審査員からのアドバイスを受け、本事業の評価、今後の可能性を検討する。また、目標とする協働体制の展開の仕方について学ぶ。今年度の事業計画、スケジュールについて共有する。	18人
	7月15日(土)	森林療法ニーズ調査	【松本養護学校父兄の方にヒアリング】 プロジェクトの説明と、ヒアリングの協力依頼、森林療法についての意見を聞く。	2人
	7月20日(木)	木工製品の開発に向けた施設の視察 また開発企画会議	【木工施設視察】 場所: 群馬県利根郡みなかみ町 カスタネット工房 ◆経済的な自立の可能性を広げるためのアイデアを発見し、開発・試作品への課題と意識を共有する。	7人
	7月25日(木)	森林療法ニーズ調査	【北原国際病院】 プロジェクトの説明と、ヒアリングへの協力依頼、森林療法についての意見を聞く	5人
	6月29日(木)	木工に取り組む福祉施設にてどんな商品の製造が可能かの検証と顔合わせ	【福祉施設視察および意見交換】 場所: 松本市沢村 エルサポートパノラマ ◆4cycleの田井中氏を迎え、具体的な木工製品の開発について、実際に施設の作業風景や機械設備などを見ながら意見交換を行う。カスタネット工房への視察を決める。	7人
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	<p>◆第一回連絡会を経て</p> <p>(1) 目標とする協働体制の共有、共同体事務局の独立組織化を図り、今までの主体的協働メンバーは協働連絡会とし、各団体継続でき、かつ自立できるための事業の仕組みづくりを進めていく。</p> <p>(2) 行政との関係性をどうするか。予算を確保してもらい、村の事業にするか、補助金として支援を受けるかの二択。</p> <p>(3) 課題ある子どもたちの受け入れを実現していく。</p> <p>(4) 秋に開催を予定している里山フォーラムに向けて、具体的な取り組みを進めていく。</p>			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2017年9月5日	
事業名	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～)			
団体名	株式会社柳沢林業			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	8月2日(木)	主に森林療法トレーナー(仮称)育成に関する年間計画策定	上原先生を東京農大に訪ね、田井中氏も交えて、今年度事業の進め方について意見交換を実施した。	4名
	8月16日(水)	田井中氏による筑北村事業の企画提案	森林療法も木工製品づくりも、そして子供たち向けのプログラムについても、地域住民が楽しそうだとお伝え方をしてもらえるように、取り組みの名前を提案。 題して <b>「ちくほく楽木(がっき)プログラム」</b>	
	8月28日(月)	進捗状況の共有、役割分担の明確化、各議題についての意見交換、スケジュールの共有	【第1回協働定例会】 場所:筑北村役場会議室203 ◆役割分担は問題なく合意が得られた。前回からの進捗を確認し、主にスケジュールの調整・共有を行った。	13名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	<p>◆第一回協働定例会を経て</p> <p>(1)今後のスケジュールを共有、里山フォーラムの日程も決定した。里山フォーラムについては、当日の内容など具体的な準備が今後必要となる。</p> <p>(2)フォーラム・森林療法体験などの機会を使い、地域住民に取り組みを知ってもらうようにする。またトレーナー講座では主体的に動いてくれる人を探しだす＝地元ファンを作る、ことで認識を共有。地域の体操教室など、興味を持ってもらえそうな入口を模索する。その企画作り、PRなど、具体的な準備、取り組みを進めていく。</p> <p>次回の定例会の日程調整ができた。</p> <p>(3)今後の展望・方向性について、協働メンバーで、密に議論していきたい。</p>			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2017年10月5日	
事業名	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～)			
団体名	株式会社柳沢林業			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	9月11日(月)	農福の現状を知る	岩間さんより案内のあった農福連携講演会に参加。主催の池田町八寿恵荘さんや参加者、またご講演いただいた講師のみなさまとの交流や今後の農林福連携を進めるについての知見の蓄積ができた。	4名
	9月12日(火)	筑北村内宝探し	新協働メンバーの田井中氏と高山氏を迎え、ちくほくくる和栗さんの案内で筑北村めぐりを行った。村の宝を再発見し、今後の可能性を検討した。	5名
	9月13日(水)	進捗状況の共有、各議題についての意見交換、トレーナー講座の企画提案	【第2回協働定例会】 場所:筑北村役場会議室207 ◆進捗状況の共有。森林療法トレーナー講座の企画提案、田井中氏による筑北村事業の企画提案、里山フォーラムについての提案	9名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	<p>◆第二回協働定例会を経て</p> <p>(1) 関連事業など進捗報告を行い、情報を共有した。今後の取り組みに大いに活用できそうだという共通認識を確認できた。</p> <p>(2) 森林療法体験(ちくほく楽木プログラム)の日程が決まったので、当日の内容、具体的な準備を始めた。地域住民にこの取り組みを知ってもらうため、また参加希望者を募集するための、チラシづくり、HP記載方法、村内放送などPRと告知方法を検討した。これらの講座から主体的に動いてくれる村民を探しだし、ちくほく楽木隊(仲間)を増やしていくという目的を改めて認識、共有した。</p> <p>(3) 次回の定例会の日程調整ができた。</p> <p>(4) 今後のスケジュールを共有、里山フォーラム・講座プログラムの遂行に向けて、当日の具体的な準備が必要。</p>			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			



報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	11月5日	
事業名	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～)			
団体名	株式会社柳沢林業			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	10月1日(日)	★葉草講座 ちくほく楽木プログラム	小川康先生(薬剤師、チベット医)と里山歩き、座学、ワークショップを行った。 ●10月1日(日)9:00～12:00、13:00～15:00 東条高畑伝承館で座学、採取したアカネの根で染色体験	午前:14人 午後:10人
	10月6日(金) 10月7日(土)	★樹林気功 ちくほく楽木プログラム	藤田雅子先生(樹林気功講師) ●10月6日(金)13:30～16:30 麻績村地域交流センター 10月7日(土) 9:30～11:30 麻績村地域交流センター	6日:14人 7日:2人
	10月10日(火)	進捗状況の共有、各議題についての意見交換	【第3回協働定例会】 場所:筑北村役場和室会議室 ◆進捗状況の共有、森林療法トレーナー講座、改め、ちくほく楽木プログラムの報告、次の企画提案、里山フォーラムについての提案	12名
	10月13日(金) 10月14日(土)	がんばっている地域に出会う	マルチステークホルダーへの参加	1名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	(1)里山フォーラムの内容について、対象者や当日内容について、具体的な話がまだできていないので、次回しっかり話し合いを進める。さらにイベントまで準備期間が短いので、段取りを円滑に行い、メンバーとも上手に協力して進めたい。 (2)今後の楽木プログラムについても、具体的な日程調整を行い、事前準備をしっかりと進めていきたい。地域の方への告知方法についても、PR方法をいま一度考え直し、できるだけ多くの村民の方の参加を得られるような周知の仕方を検討する。また、イベントとは別に最終的なビジョン・方向性についてなど、少し不透明だという指摘もあったので、丁寧かつ適宜必要事項をしっかりと抑えてイメージを伝えていきたい。 (3)地域の木工作家の方や、地域おこし協力隊のメンバーの方たちなど、活動に賛同していただける方とのつながりが始まった。今後の活動のなかで、ぜひ参加していただけるようフォローを続けたい。 (4)木工製品に関しては、楽器作りに関わってもらえそうな施設がいくつかあるとのこと、ぜひ検討を進めたい。 (5)次回の定例会の日程調整ができ、そこでは実際に我々が山から廃材を集め、楽器づくりをしてみることになった。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	11月29日	
事業名	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～)			
団体名	株式会社柳沢林業			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	11月7日(火)	『ロバの音楽座』訪問 木工製品開発企画会議	東京都立川市にあるロバハウスを訪問 プロジェクトの説明と、ヒアリングの協力依頼。楽器づくり、音楽によるウェルフェアの実現に向けて、協働の可能性を検討。筑北村ならではの楽木プログラムのプロデュース相談。 11月10日の打ち合わせ	1人
	11月9日(木)	『読書の森』訪問	小諸市にある喫茶&民泊。ロバの音楽座が長野県で活動を続けられる場所としてワークショップを始めた最初の場所。外国人の民泊客も多く来ており、障がいのある方、外国人、それ以外の方が入り混じって演奏活動をしたり、「みんなの森」という雰囲気。規模は小さいが、福祉の関わりは先進地と言っても良い。	2人
	11月10日(金)	★楽器づくり ちくほく楽木プログラム	講師：松本雅隆氏(古楽器と空想楽器を使い、演奏を行う合奏団『ロバの音楽座』代表) ●11月10日(日)9:00～12:00、13:00～15:00 東条高畑の山から枝を収集、伝承館にてワークショップ 協働メンバー14人(村民木工作家1人、学生インターン1人含む)、筑北村社会福祉協議会ちくほくする施設利用者および職員7名、地方支援事務局1名	25人
	11月10日(金)	進捗状況の共有 各議題についての意見交換	【第4回協働定例会】 場所：筑北村東条高畑伝承館 ◆進捗状況の共有。ちくほく楽木プログラムの報告、次の企画提案、里山フォーラムについての提案	11人
	11月28日(火)	環境省民間活動支援室長 佐藤隆史氏に取り組み内容や今後のビジョンをお伝えする。	午前 筑北村役場会議室にて佐藤様と関係者8名による意見交換、ヒヤリング 午後 高畑のフィールドやちくほくする、および今後のちくほくする活動場所になる学有林の案内	8人
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	(1)『ロバの音楽座』代表の松本雅隆さんをお呼びし、山で拾い集めてきた廃材やカラマツのブルーステイン材を利用して、どんぐりと釘で音の鳴る夢箱とイタールと呼ばれる弦2本の小さなギターを作った。最後は雅隆さんの指揮で、皆で身体を動かしながら、音を奏でたり、歌を歌ったりした。社協ちくほくする施設利用者の方たちの参加もあって、今後の流れのイメージできる機会となった。 (2)里山フォーラムの日程延期が決まった。当初予定していたスケジュールでは準備不足が懸念され、満場一致で延期を決定。内容については早急に、対象者や当日の内容について、具体的に話を進めていく必要がある。 (3)楽木プログラムや視察などの活動が順次遂行される中で、情報が錯乱しないよう、協働メンバー内でのコミュニケーション不足に注意したい。また、今年度の終わりが見えてくる中で、次年度につなげる最終的なビジョン・方向性についてなど、少し不透明だという指摘もあるので、協働メンバー皆の意識確認、丁寧かつ適宜必要事項をしっかりと抑えてイメージを作りあげていきたい。上手に協力して進めたい。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌 <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ <input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化 <input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	12月27日	
事業名	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～)			
団体名	株式会社柳沢林業			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	12月1日(金)	『地域づくり×森林づくり』先進地視察	【信濃町癒しの森視察】 場所:長野県上水内群信濃町アファンの森 ◆経済的な自立の可能性を広げるためのアイデアを発見し、開発・試作品への課題と意識を共有する。	9人
	12月5日(火)	農林福先駆者との出会い 【森林療法ニーズ調査】	ウェルフェアトレード・フォレスト～福祉と社会を結ぶエガオとご縁の森～場所:東京都大崎ゲートシティ ◆林福連携を手掛けているNPO法人MORIMORIネットワークやウェルフェアトレードに取り組まれている羽塚さんをご紹介いただき、お話を伺ったり、販売されている商品や製造工程などについて意見交換をした。	2人
	12月11日(月)	進捗状況の共有各議題についての意見交換	【第5回協働定例会】 場所:筑北村役場204会議室 ◆進捗状況の共有。次年度に向けた取り組み方法と今後の事務局体制について。里山フォーラムについての具体的な提案、ターゲット、スケジュール。	14人
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	(1)これまでの活動をふまえ、今後の展望・方向性について、協働メンバーで話し合いができた。継続的な事業への取り組みとして、方向性の確認とその共有ができた。地域おこし協力隊のメンバーの賛同もいただき、地域のネットワーク作りに関わってもらえることになったので、今後もフォローを続けるとともに、具体的な協働体制や、活動については引き続き密に議論していきたい。 (2)里山フォーラムの内容については、(1)を受けて、協働メンバー全員の合意のもと対象者がまず決定、当日のおおまかなプログラムについてもメンバー意見一致で決まった。具体的な中身については講師として呼びする先生方を交えて今後密に話し合っていく必要がある。 (4)フォーラムに向けては引き続き進捗確認をしっかりと行い、限られた準備期間の中で、段取りを円滑に行うように努め、メンバーとも上手に協力して準備を進めたい。 (5)イベントとは別に、まだ残された事業プログラムについても引き続き進める。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	1月30日	
事業名	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～)			
団体名	株式会社柳沢林業			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	1月18日(木)	副知事訪問 本事業の活動報告	【中島副知事のご訪問】 場所:長野県庁 10:00～11:00 林福連携や里山を活かす取り組みについてご報告と意見交換 参加者:協働メンバー5人、筑北村産業課課長宮島氏、EPO中部より新海さん内木さん	8人
	1月18日(木)	進捗状況の共有 各議題についての意見交換	【第6回協働定例会】 場所:筑北村役場201会議室 ◆里山フォーラム準備の進捗を確認した。 当日の役割分担、会場設営、ちらし広報等、項目は多岐に渡った。	11人
	1月25日(木)	里山フォーラム周知のための広報	里山フォーラム広報(プレス)取材対応 場所:筑北村役場会議室 参加者:筑北村役場総務課1人、地域おこし協力隊4人、社協ちくほつくる2人、村民1人、柳沢林業1人	9人
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	(1)副知事訪問についての報告を受け、今までの活動履歴、今後の展望・方向性、役場の産業課長の参加もあって、村としての考えや希望など、本事業含め、地域活性化へ向けた今後の事業展開について、協働メンバーで共有ができた。 (2)仕様書に合わせた活動の進捗報告を共有できた。 (3)里山フォーラムの当日のスケジュールの確認、役割分担、準備について、ちらし広報について、イベントまで準備期間が短いので、段取りを円滑に行い、メンバーとも上手に協力して進めたい。 (4)次回定例会は里山フォーラム反省会含め今年度活動総括として開催、ギャザリング報告会が2月17日にあるので、そのあとの日程で協働メンバー全員でスケジュール調整を行いたい。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input checked="" type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌  <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ  <input type="checkbox"/> Webメディア・その他	①「松本平タウン情報」(1/27(土)) 『真冬の筑北満喫しよう 3、4日 村や社協、地域おこし協力隊などが催し』		
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供  <input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化  <input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2月28日	
事業名	平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～)			
団体名	株式会社柳沢林業			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input checked="" type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	2月3日(土)	前日準備	里山フォーラム前日準備 場所: 筑北村役場、ゲストハウス角屋 松本雅隆氏(ロバの音楽座)と音合わせ	8人
	2月4日(日)	地域住民の交流促進、理解促進	【里山フォーラム】 場所: 東条高畑の里山、東条伝承館 ①上原先生(東京農業大学教授)と現地ワーク ②事業の紹介、香山氏(山仕事創造舎)の講演、上原先生の講演(詳細は、チラシ参照のこと)	54人
	2月5日(月)	木工製品開発会議	木工製品開発、製造工程の検討会議 障がい者就労継続支援B型事業所「マーメイドタバン元町」代表の中村氏と顔合わせ、施設の視察、打ち合わせ。	6人
	2月5日(月)	木工製品開発会議	木工製品開発、製造工程の検討会議 (有)柳澤木工所を訪問、林福連携事業としての展開、役割分担の可能性の検討	3人
	2月17日(土)	全国の事例につき学び、気付きを得る。	【合同報告会】 場所: 国連大学 ◆目的: 各事例の紹介と、意見交換を経て、自分たちの事業の参考にする。	3名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	(1) 里山フォーラムが盛況で良かった。今後の方針・課題については、次の定例会にて話した。 (2) イベントを受けて、今後取り組みたいことのイメージが関係者それぞれで浮かんだようで良かった。 (3) 福祉、教育関係者の参加を得られず、そういった関係者への興味や理解を深めることが今後の課題。一般の参加者(特に、筑北村内、東条近辺の住民)への広がりもそうだが、外からのいいねに期待したい。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input checked="" type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌		①「市民タイムス」(2/2(金)) 『筑北の冬 里山で遊ぼう 森の散策や山仕事体験 イベント多彩3、4日』 ②「市民タイムス」(2/6(火)) 『里山の魅力と癒し満喫 拾った木の枝で楽器作り』	
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

<p>事業名：森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～</p> <p>記入日：平成30年2月2日</p> <p>記入者：株式会社柳沢林業（担当：原、藤澤）</p>	<p>①この取組がどう必要なのか</p> <p>☆現在表面化している問題はなにか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 山林の荒廃(村木価値低下、物理的な危険)</li> <li>2. 生活者の山林離れ(意識的・物理的)</li> <li>3. 地域の里山活用の担い手不在(≒過疎化)</li> <li>4. 住民1人あたりの医療費増加(国保医療費県内第5位※H27年度現在)</li> </ol> <p>☆放置した場合にどのような問題が生じるか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会の機能低下</li> <li>2. 森林の多面的機能の著しい低下(里への被害)</li> <li>3. 地域の生産機能の著しい低下</li> <li>4. 住民の健康管理能力の低下</li> </ol>	<p>②この取組でどのような状況の達成を目指すか</p> <p>☆2018年度時点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 築木隊メンバー募集活動&amp;森林保健活動のための人材育成</li> <li>2. 林福連携取り組みの事業化計画(案)の作成&amp;実際の受け入れ開始</li> </ol> <p>☆2019年度時点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 新規活動主体の準備委員会の立ち上げを検討</li> </ol> <p>☆2020年度時点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材育成プログラムの継続、林福連携取り組み事業化計画の策定・滑り出し</li> <li>2. 新規活動主体の自立運営体制の充足・滑り出し</li> </ol> <p>☆2020年度時点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材育成プログラムの継続、林福連携取り組み事業の確立</li> <li>2. 新規運営体制の自立化</li> </ol>	<p>③この取組で具体的に何をどのように行うのか</p> <p>☆2018年度時点：築木隊メンバー募集のための講習会などの開催と築木プログラムの充実を図る検討会の実施。木工製品開発に向けたプロジェクトの再検討。また本事業に係る主体の確立を検討。</p> <p>☆2019年度時点：築木隊メンバー募集活動の継続。築木プログラムの評価、検討の継続。本事業に係る新規活動主体の体制づくり。</p> <p>☆2020年度時点：築木隊メンバー募集活動の継続。築木プログラムの確立に向けた検討会の実施。本事業に係る新規活動主体の充足。</p>
<p>④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はどのようなものか</p>	<p>⑤3年後にステークホルダーとの関係性はどのようなものか</p> <p>☆3年後の独立組織化</p>	<p>⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か</p> <p>☆【共通のニーズ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筑北村(地域全体)と、里山の価値見直し</li> <li>2. 里山空間・森林資源の活用推進</li> <li>3. 森林の多面的機能の改善・向上</li> <li>4. 森林と人との共生関係の再構築</li> </ol> <p>☆【個別ニーズ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康づくり、予防医療</li> <li>2. 障害の療育・リハビリ・メンタルヘルス</li> <li>3. 雇用の創出、就労支援</li> <li>4. 木工製品の開発・試作＝地域の経済活動</li> <li>5. 森林整備＝材木伐採・搬出の促進</li> </ol>	
<p>⑦この取組を進める上での課題は何か</p> <p>☆1. 地域住民のさらなる理解・参画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域住民との対話(要望引き出し)</li> <li>(2) 活動運営上の協力者、キーマンの確保</li> <li>(3) 継続実施のための仕組みづくり、新しい事業体の創出</li> <li>(4) 地域住民の健康促進</li> </ol> <p>☆2. 筑北村役場から(への)支援(双方向)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 住民・行政間の対話、中間支援の仕組み</li> <li>(2) 核となる人材の理解促進</li> <li>(3) 村全体のメリットの検討、施策提言化</li> </ol>	<p>⑧この取組を進める上で課題にどのように対応するか</p> <p>☆1. 地域住民の参画可能なキッカケ&amp;場の設置</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域住民向け説明会&amp;意見交換会の実施</li> <li>(2) 現地ワークショップなどへの参加要請(核となる人材を先行・優先的にする点、留意。)</li> <li>(3) 広報活動の継続</li> </ol> <p>☆2. 筑北村役場との意見交換の場を設置</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 最初は、協働メンバー等を中心に議論</li> <li>(2) 施策低減の「たたき台(Draft)」の段階で、意見交換の場を設け、役場サイドのニーズ・視点を傾聴する。</li> </ol>	<p>⑨この取組をどのように継続させるか</p> <p>☆1. 地域・住民のニーズに合わせた計画づくり</p> <p>☆2. 活動を小まめに評価する。継続させるための柔軟な軌道修正。</p> <p>☆3. ユニバーサルツーリズムの事業化</p> <p>☆4. 森林資源の活用(薪の加工販売など)、障がい者の就労支援につながる木工製品の開発</p> <p>【留意点】地域特有の人間関係“村社会”をよく理解すること。新規の試みは成立しにくい傾向あり。既存のスタイルとの協調。</p>	

中期計画(簡易版)①事業スケジュール

2017年度の重点目標・事業内容	2018年度の重点目標・事業内容	2019年度の重点目標・事業内容	2020年度の重点目標・事業内容
<p><b>【重点目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ちくほく楽木プログラムの検討と実施</li> <li>新規活動主の検討</li> </ol> <p><b>【事業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>楽木隊メンバー募集活動の開催</li> <li>ユニバーサルツーリズム及びヘルスツーリズムの事業展開、プログラムと受け入れ準備。</li> <li>山仕事講座の実施、山林事業の推進。</li> <li>児童館事業の実施、地域住民の参画を引き出すための説明会の実施。</li> <li>森林保健活動ワークショップの継続</li> <li>簡易作業道を作設、または補修。</li> <li>新規活動主体の設立検討。</li> </ol> <p><b>【ツール】</b>地域住民向け説明会・役場との意見交換会 現地ワーク、現地調査など。</p>	<p><b>【重点目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ちくほく楽木プログラムの作成</li> <li>新規活動主体の自立運営体制(案)の作成</li> </ol> <p><b>【事業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>楽木隊募集活動の継続</li> <li>ユニバーサル及びヘルスツーリズムの事業化、受け入れ実施。</li> <li>山仕事講座の継続。</li> <li>児童館事業の継続、地域住民または村との対話。</li> <li>森林保健活動ワークショップの継続。</li> <li>簡易作業道を作設、または補修整備の継続。</li> <li>新規活動主体の発足。</li> </ol> <p><b>【ツール】</b>講座＆ワークショップの継続、地域住民や村との意見交換会。</p>	<p><b>【重点目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ちくほく楽木プログラムの確立、定期受け入れ。</li> <li>新規活動主体の自立運営体制の始動</li> </ol> <p><b>【事業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>楽木プログラム事業の開始。</li> <li>森林保健活動ワークショップの継続。</li> <li>簡易作業道を作設、補修作業の継続。</li> <li>新規活動主体の確立＆継続。</li> </ol> <p><b>【ツール】</b>講座＆ワークショップの継続、楽木プログラム(筑北村ならではの提供サービスの確立と全体の仕組み＝体制＆プログラム内容の改善。</p>	<p><b>【重点目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ちくほく楽木プログラムの確立、定期受け入れ。</li> <li>新規活動主体の自立運営体制の始動</li> </ol> <p><b>【事業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>楽木プログラム事業の開始。</li> <li>森林保健活動ワークショップの継続。</li> <li>簡易作業道を作設、補修作業の継続。</li> <li>新規活動主体の確立＆継続。</li> </ol> <p><b>【ツール】</b>講座＆ワークショップの継続、楽木プログラム(筑北村ならではの提供サービスの確立と全体の仕組み＝体制＆プログラム内容の改善。</p>
<p>行動計画</p> <p>2018年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p> <p>2019年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p> <p>2020年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p>	<p>行動計画</p> <p>2018年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p> <p>2019年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p> <p>2020年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p>	<p>行動計画</p> <p>2018年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p> <p>2019年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p> <p>2020年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p>	<p>行動計画</p> <p>2018年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p> <p>2019年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p> <p>2020年度</p> <p>4月～ 7月～ 10月～ 1月～</p> <p>計画 視察 ワークショップ 評価</p>
<p>筑北村版森林・フィールドツアー事業可能性の検討</p> <p>関係者向け、森林保健活動ワークショップの開催</p> <p>簡易作業道作設、補修</p> <p>新規事業主体の確立に向けた検討</p> <p>【対話の場】住民説明会 行政意見交換会</p>	<p>筑北村版森林・フィールドツアー事業可能性の検討</p> <p>関係者向け、森林保健活動ワークショップの開催</p> <p>簡易作業道作設、補修</p> <p>新規事業主体の確立に向けた検討</p> <p>【対話の場】住民説明会 行政意見交換会</p>	<p>筑北村版森林・フィールドツアー事業可能性の検討</p> <p>関係者向け、森林保健活動ワークショップの開催</p> <p>簡易作業道作設、補修</p> <p>新規事業主体の確立に向けた検討</p> <p>【対話の場】住民説明会 行政意見交換会</p>	<p>筑北村版森林・フィールドツアー事業可能性の検討</p> <p>関係者向け、森林保健活動ワークショップの開催</p> <p>簡易作業道作設、補修</p> <p>新規事業主体の確立に向けた検討</p> <p>【対話の場】住民説明会 行政意見交換会</p>

(資料—4) 中期計画(詳細版)

「平成 29 年度 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」

中期計画シート(詳細版)

森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～

平成 30 年 2 月 2 日

請負契約の受託団体の法人名	株式会社 柳沢林業
受託団体の代表者氏名	原 薫



# 目次

- 1 組織概要
- 2 地域の課題
- 3 協働取組の概要
- 4 3年後のゴールイメージ
- 5 3年後のステークホルダーとの関係性
- 6 2020年度(平成32年度)の目標・事業内容・スケジュール
- 7 2019年度(平成31年度)の目標・事業内容・スケジュール
- 8 2018年度(平成30年度)の目標・事業内容・スケジュール
- 9 事業実施における課題・リスクと対策

# 1 組織概要

法人名	株式会社 柳沢林業		代表者名	原 薫
所在地	〒390-0311 松本市水汲 1077-4		電話	0263-87-5361
			FAX	0263-87-5362
ホームページ	http://www.yanagisawa-ringyo.jp		e-mail	info@yanagisawa-ringyo.jp
組織体制	役員	7名	会員	名
	専従者	11名	ボランティア	名
	パートタイム	2名	その他( )	名
	創立年	1964年	法人設立年	2012年
これまでの活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成24年 「信州松本平の豊かな風景をつくる」を経営理念に掲げ法人化。</li> <li>●平成25年 現社長の原が事業を継承。従来型の林業形態に囚われない、自然と人の多様な関係性を模索。地域に密着しながら効率や生産性のみを優先しない多様な森林づくりを目指す。</li> <li>●平成26年 林業の六次産業化チーム「ソマミチ」を地元林業者、製材業者、建築士、工務店、家具メーカー等とともに設立。地元の木の有効活用を目指す。原が代表を務める。平成27年12月法人化。</li> <li>●平成27年 松本市岡田地区で「山と馬プロジェクト」を開始。馬搬(馬による伐採木の引出し技術)など馬の可能性に着目し、地元有志、木育活動団体と連携して里山再興に取り組む。</li> <li>●平成28年 筑北村東条地区にて「福祉の森づくり」テーマとした、荒廃里山の活用の検討を開始。地域住民、福祉関係者、行政との協働取組として実施。</li> </ul> <p>※活動拡大に伴い、雇用を拡大(平成24年10名→現在21名)</p>			
過去5年間に受けた補助金や助成金等の名称及び金額	<p>平成25年度 間伐等森林整備促進対策事業 8,000,000円</p> <p>平成25年度 信州フォレストコンダクター育成事業業務委託 495,000円</p> <p>平成26年度 緑の雇用事業 8,829,400円</p> <p>平成26年度 信州の森林づくり事業(森林環境保全整備事業) 1,127,400円</p> <p>平成26年度 森林整備地域活動支援交付金(森林経営計画作成促進) 1,220,000円</p> <p>平成26年度 地域材利活用倍増戦略プロジェクト事業 1,786,000円</p> <p>平成27年度 森林整備地域活動支援交付金(森林経営計画作成促進) 696,480円</p> <p>平成27年度 緑の雇用事業 3,467,225円</p> <p>平成28年度 信州の森林づくり事業(森林環境保全整備事業) 10,762,500円</p> <p>平成28年度 森林整備地域活動支援交付金(森林経営計画作成促進) 299,580円</p> <p>平成28年度 信州の森林づくり事業(森林環境保全整備事業) 3,529,400円</p> <p>平成28年度 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業 2,484,000円</p>			

	平成 28 年度 緑の雇用事業 3,337,696 円			
事業地域	事業名	森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～		
	該当地域	中部地方		
	事業実施地域	長野県東筑摩郡筑北村東条地区		
事業分野	<input type="checkbox"/> 低炭素社会	<input type="checkbox"/> 循環型社会	<input checked="" type="checkbox"/> 自然共生社会	<input type="checkbox"/> その他 ( )

## 2 地域の課題

### 現在表面化している問題

筑北村は、典型的な中山間地域の山村であり、過疎化・高齢化が進み、主な産業である農業は担い手不足による遊休荒廃地の拡大が進んでいる。本事業の対象としている東条地区では、戦前・戦中に山林を開墾、「西条白菜」など地域特有の農産物が盛んに生産されていた。一部には、荷車道やかつての畑跡、石垣境、炭焼き窯跡が残るが、現在は全く利用されていない。総面積の約84%を占める山林については、枯れたアカマツを中心に行政主導で森林整備を進めているが、農業と同様林業も担い手が不足しており、特に広葉樹の広がる里山は、広大な面積が放置されたまま森林の持つ公益的機能(水源涵養、土砂流出防止、生物多様性保全、地域環境保全などの機能)が著しく低下した状態にある。また一人当たりの国保医療費は県内第5位(H27年度時点)とトップクラスの高さであり、住民の健康づくり・健康維持による医療費削減が喫緊の課題となっている。さらに人口流出に歯止めをかけるため、村内の雇用創出も課題の一つとなっている。

### 放置した場合に想定される問題

面積の8割以上が森林である筑北村において、森林の荒廃は村の衰退を加速させてしまう恐れがある。また、大半を占める急峻な山では、かつては薪炭林として短期的伐採されていたが現在は樹木が成長し過ぎており、倒木が多く発生している。これを放置し続けた場合、山地崩壊による里山住民への危険性が高まることが予測され、また農業が産業の中心である当村では裏山である里山の荒廃は住環境を悪化させる。過疎化の進行も防げない。加えて人の関与によって保たれてきた里山における生物多様性も乏しいものとなっていく。

### 該当地域の社会的・地域的背景

平成17年に3村が合併して筑北村になったものの、過疎化・高齢化には歯止めはかからず、農業以外の目立った産業は生まれていない。一方で、山々に囲まれた地域ながら、高速道路・JRが通り、周辺市街地とのアクセスは比較的良好。昔ながらの「村の原風景」も残っており、近年はその風景や生活を求め移住者が増加傾向にある。また、高齢者や子どもを含めた相互扶助精神が強く、地域内の見守りが機能するなど、都市部で失われた“村社会”の機能を残す。2010年に村で初めてとなる障がい者の活動の場が整備されたことや2014年より地域住民有志が、障がいや重い病気を得てしまった子どもと家族の旅行をサポートする取組が始まり、山林や農地と

いう地域資源と福祉の融合、住民の協働を模索する動きも徐々に理解が得られる状態に近づいている。

### 地方公共団体の政策課題等との関係性

筑北村社会福祉協議会の障がい者自立支援センター「ちくほっくる」や村役場は、地方創生関連事業である木質バイオマス循環自立創生事業に着手している。筑北地域の森林資源を有効活用することで、地域防災力、エネルギー自給率を高めること、また地域内雇用を創出し、障がい者の就労支援も目指していくことが目的であり、今回の事業との関連は深い。

### 3 協働取組の概要

#### 協働取組の目的とテーマ

- 筑北村の豊かな自然環境の価値を見直し、森林と人との共生関係の再構築を通じて、里山を中心とした「人も森も健康に」なることを目的として、活動を実施する。
- 地域住民と、福祉・医療・教育関係者などを中核メンバーとしながら、多様な立場の人々が、多様な関わり方を持てる森林・里山の環境を創出することをテーマとする。
- 地域住民の健康促進、若者や障がい者の就労支援、都市と山村住民との交流、林業と福祉の連携模索などのきっかけ作りを行うとともに、最終的には、地域に新しい事業体を創出することを目指す。

#### 課題解決に向けたアイデアと協働プロセス

- 昨年度(平成28年度)は、本事業を活用し、地域課題の解決に向けて取組を推進してきたが、その中で、協働関係に良い変化が見られ、取組に積極的に賛同する新規メンバーの参加などがあった。特に、筑北村社会福祉協議会の障がい者自立支援センター「ちくほっくる」や村役場は、村による地方創生関連事業である木質バイオマス循環自立創生事業との関連もあり、本事業を通じて当社との間に緊密に連携を取り合う関係が構築できた。「ちくほっくる」利用者は、山の手入れを中心とした活動をした結果、精神面、体力面でよい変化が現れ始めており、今後も継続的に山へ入ることを決定している。
- 地域住民(森林所有者)からなる東条高畑及び周辺里山森林整備協議会は70~80代の高齢者中心の組織だが、整備を通じて徐々に変化する山へ入ることで充実感を感じており、山林の将来性に対する期待感が非常に高まってきている。
- 村は人口減少対策として子育て環境のさらなる充実を目指しており、今後地域の資源である自然を活用した野外保育・野外教育を積極的に教育施策に取り入れていくこととしている。
- 林業と福祉の連携によって得られる効果を実証することにも重視している。そのために医療・障がい者支援関係者の参画も仰ぎながら、山林空間利用や、障がい者も取組やすい木工製品の開発などを検討し、就労支援につなげるなど、里山の活用が福祉面に貢献する可能性を探り、地域再生のきっかけづくりとしていく。

#### ステークホルダーのニーズとの整合性

●筑北村と住民たちが、魅力ある地域を創造しつつ、里山との関わりを取り戻す。里山の活用・交流促進を契機に、里山に新たな社会的価値を付加したいと考えている。

●老若男女を問わず、気軽に里山を散策し、軽作業で汗を流し山の恵みを得て、心身健康となるよう、空間や人のネットワーク構築を目指している。地域住民を軸に、各領域の専門家と協働して農林業の新たな可能性を見出すとともに、村の資源を大いに活用した産業づくりに貢献したいと考えている。

## 継続のポイント

●地域住民のさらなる理解・参画は必要と考えている。山村地域特有の人間関係“村社会”をよく理解し、既存のスタイルに協調し、地域・住民のニーズに合わせた計画づくりを行うよう努める。また活動運営上の協力者となる人材の確保と関係の構築が望ましいので、そのために活動を小まめに評価し、都度柔軟な軌道修正が必要となる。

●各地で取組が始まっている農福連携は、まだ成功事例は少ないが、すでに生産物のブランド化や地域活性、障がい者の所得向上と精神的自立などが図られている事例が生まれ始めている。そのような時流の後押しも受けながら、農林福連携を通じた村と連携強化や、産業づくり(ユニバーサルツーリズム)といった構想を実現させていく。

●筑北村役場(行政)から、また村役場へ、双方向の支援が不可欠と考えている。村として納得のいく切り口で提案・働きかけを行っていく。

## 4 3年後のゴールイメージ

### 2020年度(平成32年度)のゴールはどこか(最高の状態)

- 森林保健活動の継続、またユニバーサルツーリズムおよびヘルスツーリズム、ソーシャルファームの事業展開において、専門家や地域住民、村や村の専門家に本活動の趣旨が行き渡り、自発的な活動への発展へと進んだ状態となる。
- 本事業に係る新しい協働体制が整った状態となり、また個人・団体を問わず、本活動に意欲的な参加者、楽木隊メンバーも増え、筑北村ならではの新規主活動主体が整う。

### 2020年度(平成32年度)のゴールはどこか(望ましい状態)

- 森林保健活動の継続、またユニバーサルツーリズムおよびヘルスツーリズム、ソーシャルファームの事業展開において、専門家や村民、村の専門家らに本活動の趣旨が行き渡り、プログラム確立に向けて議論が進んでいる状態となる。
- 本事業に係る新しい協働体制を整え、個人・団体を問わず、本活動に意欲的な参加者、楽木隊メンバーが増え、地域のニーズに合わせた楽木プログラムの計画づくりがされる。

### 2020年度(平成32年度)のゴールはどこか(確実に達成する状態)

- 森林保健活動の継続、またユニバーサルツーリズムおよびヘルスツーリズム、ソーシャルファームの事業化において実際に受け入れを実施し、専門家や村民、村からの評価も聞き入れ、プログラム継続また改善のための議論が進められる状態となる。
- 本事業に係る新しい協働体制を整え、個人・団体を問わず、本活動に意欲的な参加者、楽木隊メンバーを増やすためのプログラムを継続し、活動参加の受け入れ体制が整っている

### 事業の結果を測る指標(アウトプット)

- 推進協議会の機能が整備されている。
- ユニバーサルツーリズム、およびヘルツツーリズムの事業プログラムが確立されている。
- ソーシャルファーム事業において、社会的弱者の雇用がされている。
- 活動フィールドの改善、安全な空間づくりが提供できている。
- 地域住民の参画があり、児童館事業やツーリズムの受け入れなどでは村と協働できている。



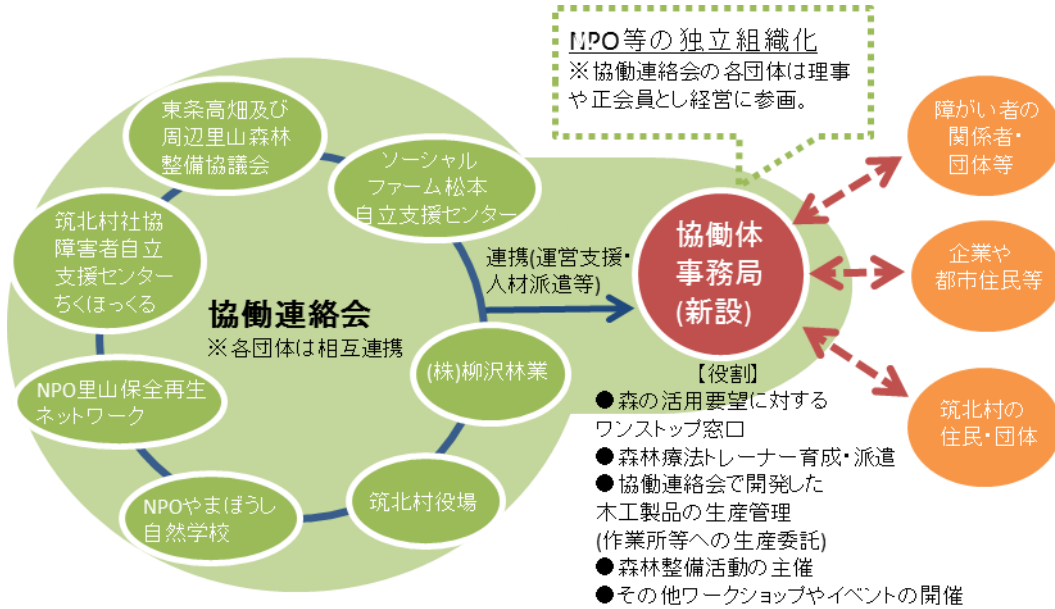
---

## 事業の効果を測る指標(アウトカム)

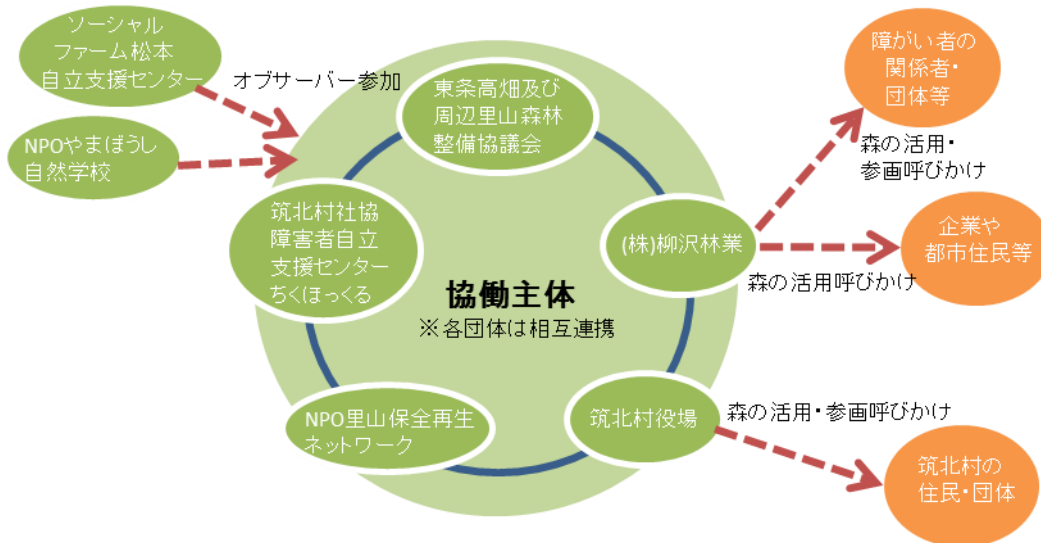
- ワークショップの参加者からの評価(アンケート等による)
- 地域住民、村内外の各領域の専門家の参加人数
- 講習、視察などの気付きから作成した、森林ワークショップ(プログラム)のメニュー数

## 5 3年後のステークホルダーとの関係性

### ➤ 新規事務局体制の確立



### 【参考】本年度事業開始時点の関係図



### ➤ 今後の活動イメージ

- ・ 森林資源の活用(山づくり、薪づくり＝健康づくり、予防医療、障害の療育)
- ・ 木工製品の開発(若者・障がい者の就労支援)
- ・ 地域住民の参画(ちくほく楽木隊、ちくほく楽木プログラムの発展)
- ・ ユニバーサルツーリズムの受け入れ、また森林保健活動の継続。

## 6 2020年度(平成32年度)の目標・事業内容・スケジュール

### 2020年度(平成32年度)の目標

- 推進協議会の機能が整えられる。
- ユニバーサルツーリズム、およびヘルツツーリズムの事業化、プログラムの確立。
- ソーシャルファーム事業において、社会的弱者の雇用を実現する。
- 活動フィールドの改善、安全な空間づくり、誰もが(健常児、障がい児、高齢者、医療的ケア児およびその家族など)遊べる空間を提供する。
- 村民や村への取組の周知は継続する。地域住民の参画を得て、児童館事業やツーリズムの受け入れなどでは村との協働を図る。

### 目標を達成するための事業内容

- 長野県が森林税事業で行う森林保健活動の人材育成を活用し、楽木隊メンバーを増やすための講習会を継続、また楽木プログラム(提供サービス)の確立のため定期的に定例会を開催する。
- 活動フィールドへのアクセス改善のため、簡易林道の作設または補修を行う。
- ソーシャルファーム事業としての山仕事の講座や、社協と協働して山林事業を継続する。
- 林業・製材業・木工業：福祉施設・デザイン企画会社との連携による木工製品(楽器)の試作、販売をする。
- 松枯れ更新伐跡地を利用した枝物の持続的生産のための観察、マーキングを続ける。
- 地域住民の参画を得るために、説明会や意見交換会を実施するなど、村役場への趣旨を広めることなども含め、取組の周知を継続する。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キックオフMTG ☺		☀		☀		☀		☀		☀	
新規主体・検討部会 ☆	→ 新規主体発足会 ☆										
森林保健活動の継続、楽器プログラムを定期的に開催											
ユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズムの定期受け入れ											



## 7 2019年度(平成31年度)の目標・事業内容・スケジュール

### 2019年度(平成31年度)の目標

- 推進協議会の機能を整え、本事業が継続活動となるような仕組みづくりをする。
- ユニバーサルツーリズム、およびヘルツツーリズムの事業展開において、プログラム内容の充実を図る。
- ソーシャルファーム事業としての取組を継続させながら、雇用につながる仕組みづくりを検討する体制が整う。
- 活動フィールドにおいて、誰もが(健常児、障がい児、高齢者、医療的ケア児およびその家族など)安全に遊べる空間づくりをする。
- 児童館事業やツーリズムなど、地域住民のさらなる理解と参画を得るため、村民や村への取組の周知を継続する。

### 目標を達成するための事業内容

- 長野県が森林税事業で行う森林保健活動の人材育成を活用し、楽木隊メンバーを増やすための講習会を継続する。
- 楽木プログラム内容(提供サービス)の確立に向けて評価し、充実を図る。
- 活動フィールドへのアクセス改善のため、簡易林道の作設または補修する。
- ソーシャルファーム事業としての山仕事の講座や、社協と協働して山林事業または講習会を継続する。
- 林業・製材業・木工業：福祉施設・デザイン企画会社との連携による木工製品(楽器)を開発、試作する。
- 松枯れ更新伐跡地の里山を利用した枝物の持続的生産の可能性を観察する。
- 地域住民の参画を得るために、説明会や意見交換会を実施するなど、村役場への趣旨を広めることなども含め、取組の周知は継続する。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キックオフMTG ☺		☀		☀ 定例会		☀ 定例会		☀ 定例会		☀ 定例会	
新規主体・検討部会 ☆	→					☆ 新規主体発足会					
森林保健活動の継続、楽器プログラムを定期的に開催											
ユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズムの定期受け入れ											

## 8 2018年度(平成30年度)の目標・事業内容・スケジュール

### 2018年度(平成30年度)の目標

- 推進協議会に求められる機能を、社協立ち上げ予定のNPOと柳沢林業がメンバーとなっている(社)ソマミチで担える形に整備する。
- これまでの取組をユニバーサルツーリズム、およびヘルスツーリズムの準備段階と位置付け、筑北村ならではの事業として展開していく。実際に受け入れを実施する。
- ソーシャルファーム事業として、農林業の多角化と社会的弱者の雇用実現のための取組を続ける。
- 高畑フィールドを健常児、障がい児、高齢者、医療的ケア児およびその家族など、多様な人々が安全に遊べる空間づくりをする。
- 児童館事業での子供育成会メンバーの参加やツーリズムの受け入れバイトのような形で、村民への取組の周知や村への関与を引き出すための働きかけは継続する。

### 目標を達成するための事業内容

- 長野県が森林税事業で行う森林保健活動の人材育成事業も活用し、楽木隊メンバーを増やすための講習会を開催する。
- 長野県認定の里山活動フィールドとして申請する。
- 楽木プログラム内容(提供サービス)を充実させていく。
- 活動フィールドへのアクセス改善のため、簡易林道を作設または補修する。
- ソーシャルファーム事業として、山仕事(伐採、大地の再生)講座の実施や、社協と協働し、山林事業を進める。
- 林業・製材業・木工業・福祉施設・デザイン企画会社との連携による木工製品(楽器)を開発する。
- 松枯れ更新伐跡地を活用した枝物栽培を始めるための下調査の実施。(H29度松本市岡田地区でも実施)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キックオフMTG ☺		☀		☀		☀		☀		☀	
推進協議会キックオフ ☆			→			行政への施策 提言案のまとめ ☆					
森林保健活動の継続、楽器プログラムを定期的に開催											
ユニバーサルツーリズム・ヘルスツーリズムの受け入れ実施											

## 9 事業実施における課題・リスクと対策

分類	課題・リスク	対策
人員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林保健活動の担い手となる村の各領域の専門家（保健師など）との接触は、これからであり、人柄や人材養成が上手くいくか未知数。</li> <li>●新規活動主体の事務局（運営）を誰が担うか（担うことができるか）、不確定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政担当者や、社会福祉協議会など、これまで協働取組に参加していた関係者を通じて、適材適所になるよう検討を行う。</li> <li>●行政担当者や、社会福祉協議会などと連携して、検討する。講師からの助言や、先進地事例を参考にする。</li> </ul>
財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講師謝金や、先進地視察の出張旅費、会議運営のための人件費・管理費が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長野県森林税の活用。</li> <li>●ワークショップや、イベント、講演などの際に、参加費の徴収も検討する。</li> <li>●事業性が見通しがあるものについては、投資部分があったとしても実施していく。</li> </ul>
法・制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動対象地の土地利用に関する承諾が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別、集団いずれも説明の機会を随時設けることで、対応する。</li> </ul>

(資料—5)会議・協議 議事録

第一回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2017年8月28日(火) 13:30~15:00
2. 場所	筑北村役場 201 会議室
3. 参加者	1. 東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①橋本正義(副会長)、②中村嘉孝(会計)、③橋本逸士(事務局) 2. 里山保全再生ネットワーク 3. 親子はねやすめ ④岩間敏彦(2代表理事/3理事) 4. 筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる) ⑤和栗剛(施設長) 5. 筑北村総務課 ⑥宇都章吾 6. NPO やまぼうし自然学校 ⑦加々美貴代(代表) 7. (株)柳沢林業 ⑧原薫(代表取締役)、⑨川本良子(事務局) 8. 環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑩新海洋子(チーフ) ⑪内木京子(コーディネーター) (敬称略、以上11名)
4. 議事	<p><b>1. 決定事項</b></p> <p>(1) 協働メンバーの新たな参加</p> <p>(2) 木工製品開発については、最後の仕上げは購入した人がするような作業療法的な効果も検討しつつ、筑北地域内の製材所など村内の協力も得ながらこの地域内で行えるモノづくりを検討する。</p> <p>(3) 児童館事業の継続</p> <p>(4) 森林保健活動の継続。社会福祉協議会「ちくほっくる」では東京農業大学の上原先生指示のもと、高畑のフィールドを活用し、作業療法を継続する。</p> <p>(5) 事務局機能の役割分担：議事録については役場の宇都が作成、議事進行、EPO 中部への月次報告は柳沢林業で担当、資料作成は柳沢林業と岩間さんとで協力しながら行う。</p> <p>(6) 誰でも気軽に参加してもらえるよう「筑北村森林療法育成プログラム」改めて、本事業の取組名そのものを「ちくほく楽木プログラム」と名付けた。</p> <p>(7) 地域の参加者を増やすために村で行われている健康教室や、村の体操(サンサン体操)など、村の健康づくり推進活動との連携を試みる。</p> <p><b>2. 議事録</b></p> <p>(1) <b>新メンバーの自己紹介</b></p> <p>①. エルサポートパノラマ 相談支援専門員 高山勝好氏</p> <p>エルサポートパノラマは障がい者相談支援センターで障がい者施設でもある。木工製品づくりに取り組んでいる。東京・吉祥寺にある専門店で施設で作った製品を出している。障がい者の作るものの価値をもっとアピールしたい。木馬の試作、障がい者の方が作業工程に加われる仕組みづくりを一緒に考えていただきたい。</p> <p>②. 4cycle 代表 田井中慎氏</p> <p>11日の農福連携講演会に参加、12日に筑北村内を視察予定。</p>



## (2) 取組活動の進捗報告

### ①. 木工製品

事業開始前にエルサポートパノラマの施設見学を行った際、同行した田井中氏から群馬県のカスタネット工房について紹介があり、協議会メンバーでカスタネット工房を視察した。

工房ではアカタカ保護のための森林整備で発生した間伐材を使ったカスタネット作りに取り組んでいた。機械の手作りや熟練技術などそのまま真似をすることは非常に難しいが、国産材を使った木のおもちゃがほとんど流通していない中で、大企業ではできない付加価値を付けた製品を世に送り出すことについては、可能性を感じた。

筑北地域内の製材所の協力も得ながらこの地域内のできるモノづくりを考えていきたい。最後の仕上げは購入した人がするようにすれば、作業療法的な効果も見込める。木馬については、昨年度芸術大学の先生にデザインしてもらい、試作品を作った。今年度はモニターを募集して、その人に合わせたカスタマイズをしていくことを考えている。

和栗：楽器については、先日の視察の帰りにも提案したが、木琴(バラフォン)もよいのではないか。楽器の種類は加工しやすいもの(丸より四角、材の形を生かす)をベースに考えるとよいのではないか。色々な音が出る方が子どもも良い反応をする。

### ②. 児童館事業・やまほいく

3回(小学生2回、保育園児+松本短期大学学生1回)行った。子どもたちの発想力・創造性が発揮されて非常に良い取組になっている。大人たちも子どもたちと一緒に山に入ることで、良い影響を受けている。継続して続けていきたい。

### ③. ちくほっくるの森林活動

高畑の下の方の杉林で作業療法を実施。3名中重度の自閉スペクトラムの方が参加。施設のスタッフが上原先生の著書を手引きに実施。

利用メンバーはロープで囲った範囲内で、はさみを使った下草刈り、のこぎりで木を切っている。問題行動が減少(環境調整も要因のため、森林療法だけが全てではない)。

## (3) 八寿恵荘での講演会について(岩間氏)

直接本事業の取組と関係ないが、農福連携の仕掛人の方と知り合った。9月11日に八寿恵荘で講演会をやるとのことなので、ご都合つくかたで興味がある方はご参加下さい。

**(4) 筑北村まち・ひと・しごと創生総合戦略「木質バイオマス循環自立創生事業」について(宇都氏、和栗氏)**

村で国の地方創生補助事業を活用して社会福祉協議会を中心とした林業事業体の設立に向けた準備を進めてもらっている。また、村内の森林資源の現状把握等を調査し、中長期的な森づくりのための計画を作成している。

社会福祉協議会は地域にある、農業・林業・福祉・教育 etc. を結び付けて、なるべく多くの地域住民がかかわって生業を生み出していく方法を模索している。

高畑の事業とも連携をする中で、やっていきたい。

東条高畑協議会：高齢化が進む中、自分たちで山林整備をできなくなっている。

竹之下・田屋・八木育成会に声をかけたらどうか。現在育成会は娯楽(焼肉・映画)を中心に企画しているが、山遊びに協力してもらえばよい。ただし、心配なのは、蛇・ハチなどの危機管理。フォーラムをやるときは竹之下の地域の人には常会を通じて声をかけてみたい。

**(5) 事務局機能の役割分担について**

昨年度は、事務局(柳沢林業)が全ての役割を担ったが、今年度はもう少し協議会内部で分業を行っていききたい。議事録(備忘録)については、役場の宇都が作成。議事進行・EPO 中部への月例報告は事務局で担当。資料作成は事務局(柳沢林業)と岩間さんとで相談しながら行っていく。

**(6) 森林療法関連および里山フォーラムについて**

原：森林療法の講師を依頼する予定であった東農大の上原先生がアメリカに出張しており、長期不在となっているため事業の進め方を再考する必要がある。

支援事務局：より地域の人に関心を持ってもらえるような仕掛けをしていく必要がある。フォーラム・森林療法体験などの機会を使い住民に取組を知ってもらうようにすべき。

田井中：森林療法というと気軽に参加しづらい雰囲気がある。筑北村の取組を一つにまとめる「ちくほく楽木プログラム(仮)」という名称をつけてはどうか。「楽木」とは「木の楽器を楽しむ。木との触れ合いを楽しむ。山を楽しむ。」こと。「楽しむこと」を前面に押し出して筑北村らしさとして住民に受け入れてもらうのが大事。

原：上原先生の森林療法は非常にすそ野が広い取組で、結果的に何でも療法になるというもの。あまり療法という言葉に囚われない方がよい。

支援事務局：6回の講座を通じて森林療法トレーナーの候補を発掘するという認識でよいか。トレーナーを育てる。

	<p>和栗 : 森林療法トレーナーという身構えてしまう人もいる。もっと柔らかい表現でキャッチを考えたらどうか。村でやっている健康教室(きらりアクア健康教室、ロコトレ体操)や村の体操(サンサン体操)を山の中でやって、そのあとで樹林気功をやるなど村の取組と組み合わせれば地域からの参加者も増えるのではないか。また、野の花の会など、地域での取組を組み合わせると良いのではないか。地域に山の「〇〇名人」がいるので、そうした人に教えてもらいながら学ぶ機会も組み合わせた方が良いのでは。</p> <p>原 : ソーシャルファームの伊藤さんから、就労支援が必要な方がいきなり就職となるとハードルが高いため、中間のアルバイトのような仕事を提供しているが、農林業については、なかなか継続した取組に結び付けられていないので、協力して継続した取組にしたいという話をいただいている。今年度一回はそうした人も参加できる講座を実施したい。目標としては、これから3か月かけて1か月に1回を目標にイベントをやっていききたい。</p> <p><b>3. その他</b></p> <p>(1) 里山フォーラムの開催</p> <p>→仮の予定として、本年12/9(土)に開催予定、上原先生の講座をそれに合わせ12月10・11(日・月)で調整することとした。</p> <p>内容としては、具体的な話は未定。詳細未定。</p> <p>筑北村総務課(宇都氏)より、この取組を、東条地区に留めずに、村全体のモデルケースという視点で考えていきたいとの意見があった。当会としては、意見に全面的に同意するところであり、今後の活動の中で、東条地区や旧・本城村の住民に対してだけでなく、広く、広報誌・HP・村内放送などのを用いたPR活動もさせていただきたい旨、伝えた。</p> <p>(2) 次回定例会は、8月、9月、11月、12月、1月に開催予定。</p> <p>(3) ヒアリング日程</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
5 . 次 回 定 例 会	2017年9月13日(水)10:00~12:00 (仮)

第二回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2017年9月13日(月) 10:00~12:00
2. 場所	筑北村役場 206 会議室
3. 参加者	1. 東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①中村嘉孝(会計)、②橋本逸士(事務局) 2. 里山保全再生ネットワーク 3. 親子はねやすめ ③岩間敏彦(2 代表理事/3 理事) 4. 筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる) ④和栗剛(施設長) 5. 筑北村総務課 ⑤宇都章吾 6. NPO やまぼうし自然学校 ⑥加々美貴代(代表) 7. (株)柳沢林業 ⑦原薫(代表取締役)、⑧川本良子(事務局) 8. 環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑨内木京子(コーディネーター)(敬称略、以上9名)
4. 議事	<p><b>1. 決定事項</b></p> <p>(1) 森林療法関連の活動の参加者名称は、「ちくほく楽木隊」とする。</p> <p>(2) 今年度活動の実施日程(予定)</p> <p>① 薬草講座：10月1日(日)</p> <p>② 樹林気功：10月6日(金)、7日(木)、8日(金)のいずれかの日程</p> <p>③ 古武術講座：未定、9月28日(木)までに決定する。</p> <p>④ 里山フォーラム：12月10日(日)</p> <p>⑤ 上原氏の講座：12月10日(日)と11日(月)に第1回と第2回を開催、里山フォーラムの内容次第で、1月開催の可能性も検討する。</p> <p>⑥ 次回定例会：2017年10月10日(火)→時間は未定。調整後、連絡する。</p> <p><b>2. 議事詳細</b></p> <p>(1) 関連事業などの進捗報告</p> <p>① 農福連携に関する講演会について(岩間さん)</p> <p>池田町八寿恵荘で開催された農福連携に関する講演会に田井中、原、岩間が参加した。農福連携は、農業と福祉は相性が良い。10年前 JA 共済総研で濱田健司氏が農福連携の研究を始めた。農福というと農業・福祉の連携だけに目が行きがちだが、全国農福連携推進協議会では林業・漁業と福祉の連携も見据えて活動をしている。</p> <p>筑北村の取組もこうした流れに沿った動きといえる。村内のあらゆる立場の方が関わって進めていける。中島副知事もこうした取組に関心があるため、長野県全体の動きにつながるかもしれない。</p> <p>課題として、それぞれの地域がバラバラで取り組んでいるため、連携できていない状態がある。全国組織などの場所で情報交換を行うなど顔を広げる活動も重要。</p> <p>池田町ではハーブによる町づくりということで栽培が盛んだが、八寿恵荘で育てているカモミールについては障がい者施設にも関わってもらうことを考えているようである。</p>

農福連携自体は、全国で取り組まれているが、それぞれの地域が持つ独自資源を生かして取り組んでいけば、各地域のオリジナリティを武器にできるため、他地域との競争が発生しにくい。筑北村ならではの形を模索していくと良い。

京都で農福マルシェということで農福連携に取り組んでいる団体が全国から集まってやっている。筑北村もそうしたマルシェに出店していければ販路の拡大につなげられる。

付加価値をつけて販売するため、様々な分野の人が関わって商品開発などを行っている。

#### ②下伊那郡松川町の視察(川本)

障がい者施設との林福連携の事例ということで、松川町にある小椋園芸さんへ視察にいった。小椋園芸では山の斜面を利用した枝物栽培をしている。こぶし園という福祉施設も運営しており、施設入所者も草刈り、枝打ちなど作業をしている。かなり急な斜面で作業していたが、問題なく行っていた。先行事例として参考にできそうである。

#### ※低林施業について(原)

かつては里山で低木を育てて燃料にすることが行われていた。強度の間伐をしていくことで、低林施業を復活させることができるかもしれない。特に筑北村の場合、花木(=桜)の栽培を盛んに行っている。林業はこれまで壮年の男性中心のものと考えられてきたが、低林施業であれば高齢者や女性でも林業に関われる機会がある。

#### ③八坂山創森祭り

大町市の八坂地区で山仕事創造舎さんが開催したクラフトフェアで、「キハダ」を材として利用する方法を紹介していた。皮を薬草にするだけでなく材も使える可能性がある。キハダは本城・坂北地域では結構山の中にある。医薬メーカーと連携して医薬品になる木を探してもよいかもしれない。

#### (2)後の事業スケジュール(原さん)

##### ①薬草講座

10月1日(日)に設定(チベット医学小川先生)。坂井の玉井政彦さんにも協力していただきながら実施する。

村の方中心に周知を行いたい。村内で活動する野の花の会の会長にもお会いする17日に会合があるため、そこで話をしてくれる。協力隊の朝散歩でも周知をする。森林療法トレーナー候補がいれば、そうした人にも声をかけてもらいたい。

宇都 : 薬草は村内でも関心が高い人が多い分野。先日役場で開催したエゴマの栽培講習会は100人以上の方が参加している。薬草講座ということで開催すればかなりの人に関心を持ってもらえるのではないかな。

## ②樹林気功

10月6～8日が候補日⇒7・8は予定がある方が多いため、6日を第1候補で調整  
役場の住民福祉課の健康運動指導士の中条さんと相談したところ、きらりアクア健康  
教室(村民対象の予防運動)で周知をしてもらえば別プログラムとして実施は可能との  
ことであった。

和栗：できれば柳沢林業から直接周知をしてもらいたい⇒9月28日に事務局から直接  
周知を行う

ロコトレ教室(※ロコモティブシンドローム予防のための高齢者向け運動教室)の方  
は役場職員から一応周知してみるが参加者が75歳以上のため、難しいかもしれない。

## ③古武術(原)⇒日程未定

甲野善紀さん(有名な古武術研究家)にお会いしてきた。息子さんは長野県内で講座を  
持っているが、山仕事については、お父さんの方が得意としている分野。甲野さんも筑  
北村での講座開催については、前向きな返事だった。薪割り・鉈を使った動きの講座を  
考えている。

## (3) ちくほく楽木プログラム(仮)のコンセプト紹介(田井中氏)

### ①田井中さん(4 CYCLE)の自己紹介

明治製菓のきのこの山・たけのこの里の対決企画やフードアクション日本立ち上げ(農  
水省)を手掛けた。

4 CYCLEの社員はそれぞれ津南町、紀伊田辺市で活動。新しい働き方の模索もしている。  
シビックプライド研究会の立ち上げにも関わっている。

最近、信州大学繊維学部と共同で、カンボジアで養蚕事業の研究・ESDに関する論文と  
して発表。

### ②楽器プロジェクト(案)の紹介

森林療法という見せ方だと、多くの人が身構えてしまうので、森で楽しんで活動する  
と結果的に療法につながるという見せ方をしてはどうかということで提案をする。

企画については、他所でやっているものなども参考にしながら考えてみた。

ア. ちくほくゴロゴロ：チップを敷き詰めた山林で寝っ転がる

イ. ちくほく体操：サンサン体操×森林療法によるバージョンアップ⇒自分たちで作っ  
た楽器も使いながらやったら面白い

ウ. 森の万華鏡：葉っぱや木の実を使った万華鏡

エ. めだまっち：木にめだま(それぞれ持ち寄り)をつけて顔にする

オ. スキヤキハイク(坂本九「上を向いて歩こう」の英語名)ハイク

：手鏡を使って上を見ながら歩く

カ. 森の楽器

- ・三板(サンバ：沖縄の伝統的なカスタネット)⇒板を3枚紐で束ねただけの簡単なつくりだが、沖縄民謡に欠かせない楽器
- ・カスタネット(カスタネット工房視察)
- ・木琴(八寿恵荘に置いてあったものは音階がばらばら)  
⇒形にこだわることはない。自分で仕上げて音が出るようにすれば立派な療法になる。

キ. ブッシュクラフト(川口拓氏が開発)

山の中のサバイバル術。ナイフ一本で山の中の生活に必要なものを作ってしまう。防災技術ということで、今後人気が出そう。⇒村の古老にも参加してもらって一緒に山の知識を伝えてもらいたい。

○ブッシュクラフト紹介ページ <https://hinata.me/article/717898972553383033>  
<http://wildandnative.com/about-wan/aboutchild02>

ク. 筑北ボックス⇒商品展開

薪と筑北のよいものを詰め合わせた木箱(薪ストーブのある家庭に筑北の魅力的な産品を詰め合わせて販売)

ケ. ちくほく楽木隊

木と森を楽しみ伝える伝道師⇒ちくほく楽木プログラムを動かす住民中心のあつまりプロフェッショナルというより“一番楽しめている人”が隊長。人に「教える」というよりも夏休みのラジオ体操で一番うまい人が前に出てお手本になるというイメージ。

筑北村のイメージ(ゆったり・のんびり)を統一感をもって伝えるデザイン・プログラムにするため、チラシ等のデザインを村のホームページを制作した会社に頼むのも一案。サンサン体操は筑北村の空気感があってよい。楽木プログラムは「部分最適」でやっていきたい。一からすべてを作るのではなく、今村内にあるものにどう新しいものを加えていくかという視点を持って、それぞれの人が得意とする分野と森林をつなげていく。

ダイアログインザダークの例⇒暗闇では、目の見えない方が一番動くことができる。

障がいを持っている方や高齢者でも、得意とする分野・環境では健常者・若者よりも優れた力を発揮できる。この事業がさまざまな分野へ取組を広げることで、山の中で健常者、障がい者、老若男女の境目を無くしていくことで筑北村ならではのおもてなしになる。

○ダイアログインザダーク紹介ページ <http://www.dialoginthedark.com/>

(4) 里山フォーラム・次回定例会について

①フォーラムの内容について

	<p>里山フォーラムの開催は12月10日だが、パノラマサポートエルの高山さんから、前の週に東京で農福マルシェのイベントがある。そこで楽器を売ったり演奏をしたらどうかという提案をいただいた。検討をしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳沢林業による山仕事講座</li> <li>・教育委員会で土曜日の児童館事業として山に入っていたので、山に入ってフォーラムをやるのであれば子ども達とそこを両親を招待してみてもどうか。(宇都)</li> </ul> <p>⇒あまり盛りだくさんになるようであれば、上原先生の講演会を1月に持っていくことも検討する</p> <p>②次回定例会：10月10日午前または午後を予定⇒決まったらメールリストで連絡する。</p> <p>(5) 会議後確認事項】</p> <p>11月の児童館事業でも、寒いのと、低学年児童が体力的につらそうなので、上るかどうか迷っているとのことだったので、12月に子供を山へ連れて行くのは難しい模様。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
5 . 次 回 定 例 会	2017年10月10日(火)時間は調整が必要。 筑北村役場にて開催。



### 第三回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2017年10月10日(火) 13:30~15:30
2. 場所	筑北村役場 207 会議室
3. 参加者	1. 東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①中村嘉孝(会計)、②橋本逸士(事務局) 2. 里山保全再生ネットワーク 3. 親子はねやすめ ③岩間敏彦(2 代表理事/3 理事) 4. 筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる) ④和栗剛(施設長) 5. 筑北村総務課 ⑤宇都章吾 6. エルサポートパノラマ ⑥高山勝好(相談支援専門員) 7. 筑北村地域おこし協力隊 ⑦大場鈴子(企画財政課) ⑧進藤香織(教育委員会事務局筑北村図書館) 8. (株)柳沢林業 ⑨原薫(代表取締役)、⑩川本良子(事務局) 9. 環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑪内木京子(コーディネーター) (敬称略、以上 11 名)
4. 議事	<p><b>1. 決定事項</b></p> <p>今後の会議等の日程</p> <p>(1) 信濃町視察：11 月の下旬、先方との調整の上日程を決定する。</p> <p>(2) 次回定例会：2017 年 11 月 10 日(火) 山での材料採取と楽器作りの木工体験をあわせて行う。</p> <p><b>2. 議事詳細</b></p> <p>(1) 新しいメンバーの紹介：進藤香織さん、大場鈴子さんの紹介(村の地域おこし協力隊)</p> <p>(2) 楽木講座実施報告</p> <p style="padding-left: 2em;">文字放送・音声放送はそれほど広報手段として有力でない。</p> <p style="padding-left: 2em;">薬草講座は村民の方も参加があったが、樹林気功は関係者のみの参加となった。2 日目は一名麻績村の方がお見えになった。</p> <p>原： 雑草にしか見えないものが薬草になる。地域には民間療法として薬草を有効活用していた方がおり、そうした知識を今後聞き取っていくのもよい。</p> <p style="padding-left: 2em;">森林療法、樹林気功のいずれも山の知識よりもその人に寄り添えるかどうかの方が大事。</p> <p style="padding-left: 2em;">今後も巨木ツアー、観月園の利用など、いろいろと可能性がありそう。</p> <p>(3) 木工</p> <p>高山： 機械加工できる施設利用者は少ない、磨いたり四角く切ったりという作業ならみんなできる。地域の人と関わりながら楽器を作るということはとても意義がある。</p> <p style="padding-left: 2em;">この取組を知り合いに紹介したところ、中信地域 2 施設から、話がまとまったらぜひ声をかけてほしいとの話があった。</p> <p>原： 楽器の材料を山の中で調達してその場で作って演奏するという体験プログラムを提供すれば人が集められるのではないか。</p>

高山 : 社会貢献したいという都会の30~40代の女性がおりに、昨年度施設の体験を希望する方を受け入れた。社会貢献活動と組み合わせれば、都市部では一定のニーズがあると思う。

栃木県セルフセンターで高畑の取組を紹介したい。⇒OK

田井中氏 : プロの木工作家さんをお願いするのであれば、施設の利用者が迷わないような指導を最初にしてもらい形が良いのではないかと。また、対価の支払いはお金以外に高畑の木を木工の材料として提供する方法などもある。

和栗 : 一連のプログラムとして提供するのであれば、いまの段階で商品化を考えるのではなく、親子はねやすめのような団体に体験ツアーとして来てもらって簡単な楽器作りをしてもらってもよいのではないかと。

⇒最初から外部の方や施設利用者に参加してもらうのではなく、なるべく段取りをしてから人を呼んだほうが良い。

#### (4) 里山フォーラムの内容について

演奏会をやったらどうかという意見をいただいている。内容について今後継続して検討。

岩間 : 10月15日長野子ども病院でカスタネットの絵付けのブースをほっとクラブでやる

#### (5) 田井中氏からの事例紹介

凸版印刷ヘルスツーリズムの実証としてモニターツアーを群馬県みなかみ町と協働で地方創生事業に取り組んでいる。地方創生事業終了後も事業化したいということで相談が合った。

保養所をもつ企業向けのプログラムとして販売、中小企業の社員のヘルスツーリズムの受け入れなどの形で発展の可能性があるということで助言をしたが、筑北村での取組も同じようなことが考えられる。

#### (6) その他

信濃町への視察を行う。11月下旬(24~25日以外)を目途に。

宇都 : イベントの進め方、周知の方法などに課題があるのではないかと。もともと役場に頼らない方法で進めてきてうまくやってきた企画だと思っているが、準備が不十分な状態で企画が動くことが多くなっており、とても心配している。行政では思いつかない素晴らしい発想と、さまざまな立場の人が集まってきているが、事務局として、企画を回していく裏方の仕事にもっと気を回すべきだと思う。

	<p>(7)次回の予定</p> <p>11月10日9:00~15:00(金)自然物採集・楽器作り・打ち合わせ</p> <p>東条伝承施設で待ち合わせ</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>5 . 次 回 定 例 会</p>	<p>2017年11月10日(火)楽器づくり後 東条伝承館にて開催</p>

#### 第四回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2017年11月10日(金) 15:30~17:30
2. 場所	筑北村 東条伝承館
3. 参加者	1. 東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①橋本正義(副会長) ②中村嘉孝(会計) ③橋本逸士(事務局) 2. 里山保全再生ネットワーク 3. 親子はねやすめ ④岩間敏彦(2代表理事/3理事) 4. 筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる) ⑤和栗剛(施設長) 5. 筑北村総務課 ⑥宇都章吾 6. (株)柳沢林業 ⑦原薫(代表取締役) ⑧川本良子(事務局) ⑨久保田彩心(帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科) 7. 環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑩内木京子(コーディネーター) (敬称略、以上10名)
4. 議事	<p><b>1. 決定事項</b></p> <p>(1) 先進地視察：平成29年12月1日(金)に信濃町で視察と意見交換を行う。</p> <p>(2) 平成29年12月9日(土)に開催が予定されていた里山フォーラムを、平成30年1月から2月当初に開催を延期する。活動は室内で行うものとし、企画担当が定例会での話し合いを受けつつ詳細について検討する。村民が参加する村の既存のイベントや地方創生事業の企画とあわせて開催することを検討する。古武術講座の開催は、来年度以降に行う方向で進める。</p> <p>(3) 次回定例会：平成29年12月11日(月)、上原氏の講座の後に行う。</p> <p><b>2. 議事詳細</b></p> <p>(1) 橋本定治さんへのお悔やみ</p> <p style="padding-left: 2em;">定治さんがこの取組をやろうとってくださったことが、本事業のきっかけであり、本当に感謝を申し上げたい。定治さんがおっしゃっていた「地域・里山をもう一度活気のある場所にしたい」という想いに沿うよう事業を継続したい</p> <p>(2) 信濃町視察について</p> <p style="padding-left: 2em;">信濃町は森林セラピー基地(森林活用した保養地)の先進地。ペンションが多く保養に訪れる人が多いことからうまくいっているという面もあるが、10年をかけて今の形になっている。山も人も元気になる取組という筑北村での活動にも参考になる。信濃町は町ぐるみで取り組んでおり、他のセラピー基地とは一線を画する取組であるといえる。</p> <p style="padding-left: 2em;">現地では、森林セラピープログラムの体験を予定している。</p> <p>岩間：活動はパンフレット見ればわかる話なので、どのように事業を運営しているのかやこれまでの実績についてお聞きしたい。</p> <p style="padding-left: 2em;">当初11月27日を予定していたが、原社長とやまぼうし自然学校の加々美氏の都合が悪いため、12月1日に変更をしたい。</p> <p>⇒特に異論無いため変更</p>

(3) 里山フォーラムについて

当初 12 月の初旬を予定していたが、準備のことなどを考えると 1 月以降の実施としたい。

当初子供たちと一緒に山に入ってはどうかという意見もあったが、12 月以降は非常に冷え込むので、外での実施は難しいため、室内での発表としたい。上原先生とは里山フォーラムについて後日改めて日程調整をする。また、同じタイミングでロバの音楽座のがりゅう(松本雅隆)さんにも再度お願いをしてきてもらう予定。

協働定例会での話し合いをもとにフォーラムの内容を考えるのは難しいので、メンバーを募ってたたき台を作り、定例会でお示しをしたい。メンバー⇒原、川本、岩間、宇都+協力隊

内木さん(EPO) : 2月に東京で本事業について報告会があるので、それまでに実施した方が報告に成果として取り込めるのでよいと思うが、お任せする。

和栗 : 会場はどうするのか、昨年度は伝承館で開催し限定的な範囲での周知となったが、今年はもっと広く周知するのか。

岩間 : 伝承館は雪かきが大変なので、とくらの研修室を使ったらどうか。温泉もある。(キッチンも裏にある)

和栗 : とくらの研修室だと呼べる人数が少なくなってしまう。冠着荘の隣の健康館でやれば、それなりに広いうえ、食事の場所やお風呂もある。ただ、東条高畑の取組ということで始まっているので、伝承館と公民館でやるのがよいと思う。

田井中氏 : 2月にバレンタイン企画としてやったらどうか。薬草(よもぎ、桑の粉末)いりのチョコレートづくりや健康体操を取り入れて、冬でも温かなれるというイメージで。今日やった楽器作りは本当に楽しかった。あのようなプログラムを取り入れるのもとても良い。ただ、楽器作りプログラムなどを取り入れるのであれば、フォーラムの開催時間は長くなると思うので、今日の楽器作りの合間に写真を撮っているのを、それをスライドで見せながら、実際に作るのは来年度のお楽しみとしてもよい。

和栗 : 地方創生事業としてやっている、林業事業体の関係で企画しているイベントも同じ時期を予定している。協働メンバーで樹林気功や今日の楽器作りを指導できるのであれば、ワークショップと講演会を組み合わせるという手もある。

宇都 : 協力隊もイベントの連携ということで声をかければ協力はしてくれると思う。

(4) 森林療法関係講座について

楽器作りの講座で想定外の予算がかかったため、今年は古武術講座を見送って、来年度以降の検討事項としたい。古武術自体には関心がある人が非常に多いので、参加料を取る形でも人を集められると考えている。

	<p>(5)読書の森</p> <p>ロバの音楽座はもともと東京が活動の本拠地で廃校などを利用したワークショップをしていたが、最近          になって廃校などがなくなってきてしまい、活動を続けられる場所として小諸の読書の森でワークショップを始めたとのこと。</p> <p>筑北村の地域おこし協力隊の青木さん(読書の森でエコトイレを作っている)との縁で今回こちらに来ていただいた。</p> <p>読書の森は民泊と喫茶店を生業としている。宮沢賢治の世界を再現したいということをやっている活動だとのこと。外国人の民泊客も多く来ており、障がいのある方、外国人、それ以外の人が入り混じって演奏活動をすることも本当に「みんなの森」という雰囲気。</p> <p>岩間 : いずれは、小諸と松本と筑北を福祉の森の拠点として結んで、お互いの取組を一緒に進めていけるようになればよい。</p> <p>(6)その他</p> <p>先日のマルチステークホルダーダイアログの会場でお会いした環境省民間活動支援室の佐藤室長より、筑北村の事業について大変興味があり、是非現地で直接お話を伺いたいと言っていた。みなさまにご都合をお伺いし、11月28日にお越しいただくことになった。</p> <p>当日のスケジュールは、役場の一室を使って午前中に意見交換をした後で、午後高畑のフィールドを実際に見に行きたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
5 . 次 回 定 例 会	2017年12月11日(月)筑北村役場会議室

## 第五回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2017年12月11日(金) 13:30~16:00
2. 場所	筑北村役場 204 会議室
3. 参加者	1. 東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①橋本正義(副会長) ②中村嘉孝(会計) ③橋本逸士(事務局) 2. 里山保全再生ネットワーク 3. 親子はねやすめ ④岩間敏彦(2 代表理事/3 理事) 4. 筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる)⑤和栗剛(施設長) 5. 筑北村総務課 ⑥宇都章吾 6. NPO やまぼうし自然学校 ⑦加々美貴代(代表理事) 7. エルサポートパノラマ ⑧高山勝好 8. 筑北村教育委員会事務局 筑北村図書館 地域おこし協力隊 ⑨進藤香織 9. (株)柳沢林業 ⑩原薫(代表取締役) ⑪川本良子(事務局) 10 環境省中部地方環境事務所 環境対策課主査 ⑫村辻裕樹 11. 環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑬新海洋子(チーフプロデューサー) ⑭内木京子(コーディネーター) (敬称略、以上 14 名)
4. 議事	<p><b>1. 決定事項</b></p> <p><b>(1)里山フォーラムについて</b></p> <p>①日時：平成 30 年 2 月 4 日(日) 10:00~(予定)</p> <p>②場所：筑北村役場</p> <p>③詳細：以下アからエをフォーラムの内容として取組準備をすすめる。アとイは会場を分けて同時進行で行い、ウとエでは一つの会場に合流する。</p> <p>ア. 森林療法講座</p> <p>会場：筑北村役場多目的ホール(予定)</p> <p>時間：10:00~15:00(予定)</p> <p>講師：上原 巖氏(東京農業大学教授)</p> <p>対象：専門的な知識を学びたい参加者</p> <p>イ. 楽器作り講座</p> <p>会場：筑北村役場 206 会議室(予定)</p> <p>時間：10:00~15:00</p> <p>講師：松本 雅隆氏(ロバの音楽座 音楽家)</p> <p>対象：筑北の木を使った楽器作りを楽しみたい参加者</p> <p>ウ. コンサート</p> <p>会場：筑北村役場多目的ホール(予定)</p> <p>時間：15:00~</p> <p>講師：松本雅隆氏(ロバの音楽座 音楽家)</p> <p>対象：里山フォーラム参加者</p> <p>エ. 平成 29 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業</p> <p>「森も人も健康に~筑北村 福祉の森プロジェクト~」活動報告</p> <p>内容：筑北村児童館事業、社会福祉協議会が行う事業の報告とあわせた活動報告</p>

	<p style="text-align: center;">対象：行政関係者、福祉・教育関係者等</p> <p>2. 議事詳細</p> <p>今回はファシリテーターとして、やまぼうし自然学校加賀美氏にお願いをした。</p> <p>(1) 信濃町視察</p> <p>発見・気づきはあったか</p> <p>岩間： 行政が関わっていたこともあり非常によく整備されたフィールドだという印象。とても静かな環境。植生も多彩だった。レスパイトへの関心ということで言えば森のかなり奥まで車いすで入っていける。</p> <p>和栗： 筑北村と信濃町の違い⇒森林セラピーのための自然環境としては信濃町に合わない。「林業と福祉」というのが筑北村ならではの取組なのではないか。</p> <p>(2) 次年度以降に向けて</p> <p style="text-align: center;">環境省事業は今年度で終わるため、地方創生事業と合流を図っていく</p> <p>① 協働体事務局の体制、各団体の役割</p> <p style="padding-left: 2em;">⇒岩間さんを軸とした体制、ユニバーサルツーリズム受け入れ窓口は柳沢林業で。</p> <p>② 農林福の人材派遣登録(講師、スタッフ、ボランティア)</p> <p style="padding-left: 2em;">⇒協働定例会の中には、実際に行動するプレイヤーがいない</p> <p>③ 筑北村の取組を地方版ミニSDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発のための目標)の一環として位置づけることで、様々な取組を統合してやっていくことができるのではないか。山・福祉など取組はバラバラだが、向かっている方向は同じ。</p> <p>④ イベント</p> <p style="padding-left: 2em;">地域の人に取組を知ってもらって参加してもらうことを目標としていたが、なかなか思うように言っていない。ただ、信濃町の報告書にもあるようにどこの地域でも同じ悩みを持っている</p> <p>(3) 来年度以降の資金調達について</p> <p style="padding-left: 2em;">やまぼうし自然学校は、東京海上日動火災保険からグリーンギフト活動ということで年間60万円(×複数回)寄付を受けて活動している。</p> <p style="padding-left: 2em;">参加料無料だが、実費は請求可能</p> <p style="padding-left: 2em;">⇒提供できるプログラムをきちんと練らないとならない。</p> <p>(4) 里山フォーラムの開催について</p> <p>① 対象</p> <p style="padding-left: 2em;">筑北村を中心に考えるか、事業を中心に考えるか、そして両方が。</p> <p style="padding-left: 2em;">村内の色々な団体が集まる場で説明に行く。村外の関心ある団体に少しずつ関わってもらう。地域での取組が広がっていかないので、</p>
--	--



	<p>和栗 : イベント外向きと内向きを使い分けてやっていくとよいのではないかな。</p> <p>地域おこし協力隊 : 企画を提示すれば朝さんぽの中で特別編ということで協力できる。上原先生の森林療法を体験しながら歩くというのはとても良い企画だと思う。</p> <p>協力隊の立場だと地域に入りやすい。地域のネットワーク作りに関わりたい。</p> <p>岩間 : 福祉連携のエコツアーということで提案をしたところ反応は良かった。</p> <p>②プログラム案</p> <p>ア. ロバの音楽座のがりゅうさんに教えていただいた楽器作りならすぐに提供できるプログラム</p> <p>前日2月3日にはがりゅうさんと音を合わせる会場を交えて演奏会をする</p> <p>イ. 山仕事講座</p> <p>ウ. レスパイト⇒寄付金に頼っている。何とか収入源を作りたい(フリーマーケットなど)。</p> <p>エ. ユニバーサルツーリズム</p> <p>⇒お金をとってやれる(レスパイトでやっていることを企画として組み立てていく)</p> <p>オ. サンサン体操</p> <p>&lt;里山フォーラムの発表について&gt;</p> <p>なぜやったのか、今後何をやっていきたいのか。</p> <p>地域の人に昔の写真を持ってきてもらうのはどうか。チラシ原案を検討する。</p> <p>(5)仕様書にあわせた進捗報告(原)</p> <p>上原先生を最低もう1回1日(半日×1回)2月5日を検討する。</p> <p>次回定例会 : 1月18日(木)午後</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
5 . 次 回 定 例 会	2018年1月18日(月)筑北村役場会議室

## 第六回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2018年1月18日(金) 13:30~15:30
2. 場所	筑北村役場 201 会議室
3. 参加者	1. 東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①橋本正義(副会長) ②中村嘉孝(会計) ③橋本逸士(事務局) 2. 里山保全再生ネットワーク 3. 親子はねやすめ ④岩間敏彦(2 代表理事/3 理事) 4. 筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる)⑤和栗剛(施設長) 5. 筑北村総務課 ⑥宇都章吾 6. NPO やまぼうし自然学校 ⑦加々美貴代(代表理事) 7. エルサポートパノラマ ⑧高山勝好 8. 筑北村教育委員会事務局 筑北村図書館 地域おこし協力隊 ⑨進藤香織 9. (株)柳沢林業 ⑩原薫(代表取締役) ⑪川本良子(事務局) 10 環境省中部地方環境事務所 環境対策課課長補佐 ⑫曾山信雄 11. 環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑬新海洋子(チーフプロデューサー) ⑭内木京子(コーディネーター) (敬称略、以上 14 名)
4. 議事	<p><b>1. 決定・確認事項</b></p> <p><b>(1)里山フォーラム役割分担</b></p> <p>①全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者受付・名簿作成(宇都・地域おこし協力隊)</li> <li>・保険加入、救急セット用意(柳沢林業)</li> <li>・アンケート作成(柳沢林業)</li> <li>・取材対応(宇都・柳沢林業・東条高畑及び周辺里山森林整備協議会)</li> <li>・食事改善推進委員との調整(岩間)</li> <li>・事業説明時間内での東条高畑及び周辺里山森林整備協議会より一言(中村)</li> </ul> <p>②A コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上野先生との調整(宇都)</li> <li>・当取組紹介データ</li> <li>・村の関連事業の紹介データ</li> <li>・上原先生講演用のデータ(上原先生→宇都)</li> <li>・芳香水用原料、アルミ箔、芳香水用スプレーボトル(柳沢林業)</li> <li>・剪定鋏(各担当者)</li> <li>・散策経路確認</li> </ul> <p>③B コース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松本氏との調整(川本)</li> <li>・スギの薄板、ジグソー、ブルーシート、絵付用塗料などの消耗品(柳沢林業)</li> <li>・ペットボトル確保(各担当者)</li> <li>・前日ブルーシート敷設等会場設営</li> <li>・演奏会リハーサル(イタール作り WS 参加者またはイタールを持っている人)</li> <li>・イタール、カスタネット等の作成済みの楽器準備</li> </ul>

**(2) 当日業務**

① 受付・開会 (8:00 関係者集合、8:30 受付開始)

- ・ 受付への誘導パネル準備・設置 (宇都・地域おこし協力隊)
- ・ 受付、資料配布
- ・ 多目的ホールサンサンたいそう放映機材 (宇都)
- ・ サンサン体操指導 (宇都・地域おこし協力隊)
- ・ 司会、挨拶 (環境省)、取組紹介、各コース講師紹介 (宇都・川本)
- ・ Bコース会場 (206 会議室) への誘導 (青木)

② 炊き出し (食事改善推進委員)

③ Aコース (原、中村、進藤、大葉、内木)

- ・ 多目的ホール会場設営 (全員)
- ・ 投影用機材準備・設置 (宇都)
- ・ 調理室準備
- ・ 司会
- ・ 記録、散策誘導 (進藤・大葉)
- ・ 当事業報告者

④ Bコース (岩間、逸二、青木、新海、川本)

- ・ 司会
- ・ 記録 (岩間)
- ・ ワークショップ補助
- ・ 報告会開催時ワークショップ補助 (青木)
- ・ 206 会議室から多目的ホールへの誘導 (青木)
- ・ 演奏会

⑤ 閉会

⑥ 片付け

**(3) 今後の活動日程**

(1) 2月3日 (金) 松本氏による演奏会リハーサル

夕方に会場チェックと、荷物の搬出。夜、18:00~20:00 ちくほく極寒山遊び  
キャンプファイヤー開催時に時間をいただき、音合わせをする。

(2) 2月4日 (土) 9:00~16:00 里山フォーラム

(3) 2月17日 (土) 10:00~18:00 協働ギャザリング

(4) 2月 開催予定 第7回定例会

**2. 議事詳細**

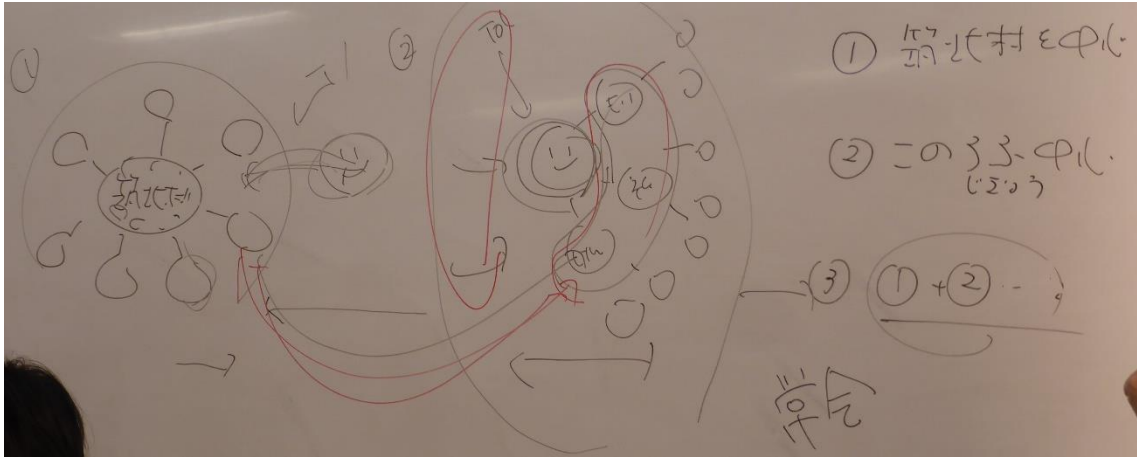
**(1) 副知事訪問についての報告 (原)**

	<p>県が考えている活動のいいモデルケースになると言われた。</p> <p><b>(2)仕様書に合わせた進捗報告(原)</b></p> <p>もう少し検討したい点がある。森林療法ニーズ調査についてはこれから。農福連携、林福連携の実施可能な役割分担の形について話しあっていくことを考えている。</p> <p><b>(3)里山フォーラムについて</b></p> <p>①チラシ完成の報告</p> <p>②1月25日(木)に市民タイムス、タウン情報の取材があるので、14時頃に村民ステークホルダーに役場に来て頂き広報してもらえるといい。</p> <p>③当日、前日のスケジュール確認</p> <p>④準備、役割分担について</p> <p><b>(4)その他</b></p> <p>①次回会議等の日程：2月にもう一度定例会を開催する。日程を調整したい。</p> <p>②植樹について</p> <p>産業課が取りまとめを行い、申請期限が1月19日となっているので申し込みをしたい。</p> <p>地権者に了解を得ながら、休憩所となっている見晴台を始点に、何年かかけ取組で整備した山道</p> <p>にサクラやモミジの並木を作っていくと良いのではないかな。</p> <p>記念の植樹ができると良い。今後お花見なども企画できる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
5 . 次 回 定 例 会	2018年2月開催予定 2月17日(土)東京でのギャザリング報告会後の日程で調整

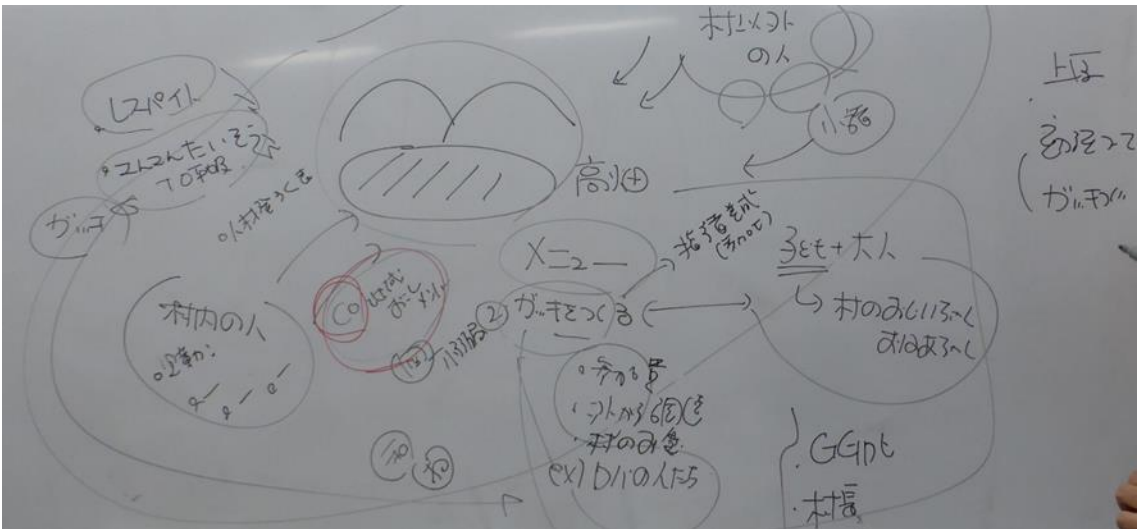
(資料—6) 第6回定例会資料

■第6回 会議板書(ブレインストーミング)

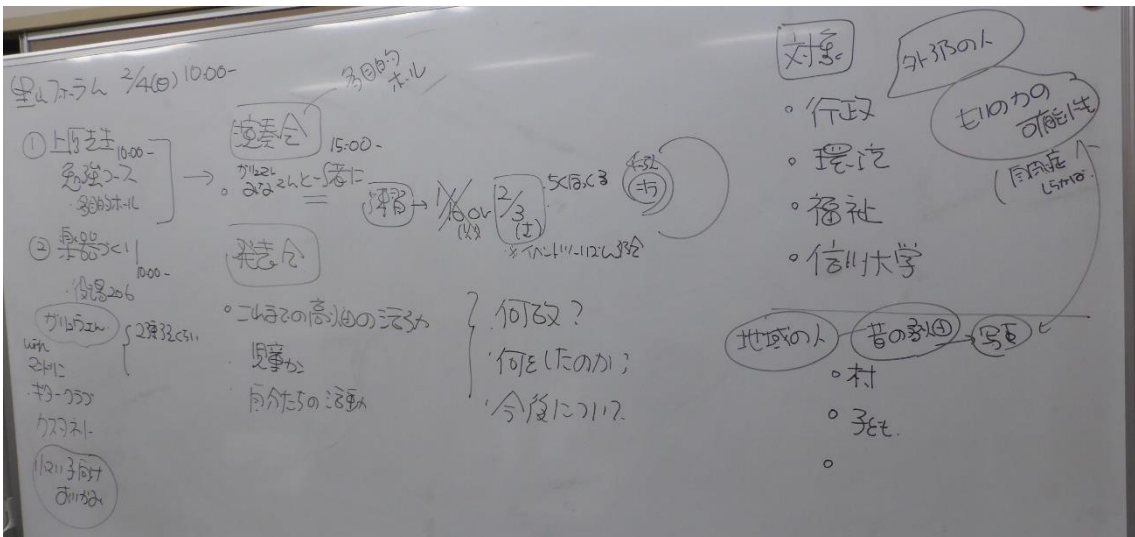
●取組におけるステークホルダー関係図



●今後の活動展開と対象者について



●里山フォーラムの内容について



(資料—7) 里山フォーラムアンケート調査

里山フォーラム アンケート集計			
回答者	16名	一般参加者	33名
回答率	48%		
1. 今回の取り組み（森も人も健康に～筑北村 福祉の森プロジェクト～）について理解いただけましたか。			
よく理解した	8	50%	
理解した	8	50%	
どちらでもない			
あまり理解できない			
理解できなかった			
合計	16		
【コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・森に人が入ることや、森の手入れをすることによって、森にも人にも良いことがあると分かった。</li> <li>・森と人が関われる方法の一つだけでなく、色々な関わり方があるということを教えていただいた。</li> <li>・福祉の森という考え方にはじめてふれたので、今後も興味を持ちたい。</li> <li>・このような取り組み(地域活性化)に初めて参加、活発な取り組みをされているとの印象を受けた。</li> <li>・パネル展示があっても良かったのかも。</li> </ul>			
2. 今回の取り組みについて、どのように感じましたか。			
とても良い	13	81%	
良い	3	18%	
どちらでもない			
あまり良くない			
良くない			
合計	16		
【コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行き過ぎた人の生活(複雑過ぎる、不安なものがありすぎる等)が、森に入って自然に触れることでSimpleになると思った。</li> <li>・病気や障がいのあるなしに関わらず生活にもっと自然を取り入れることはすごく大切だと感じた。</li> <li>・参加した人達が、机の上で考えたり教えてもらうのではなく外に出て身体を動かしてみたりさわったりしながら考えたのが良かった。</li> <li>・幅広くエキスパートを招き、多面的な切込みをなされていると感じた。</li> <li>・とても楽しく学べた。</li> <li>・地域住民の取り込みが課題ですね。</li> </ul>			
3. 今回の取り組みをより良くするためには何が必要と感じましたか。アイデア・ご提案をお聞かせください。			
【コメント】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山だけでなく、川岸や田畑などのちょっとした自然の中へ気軽に行ける場所があれば尚良い。</li> <li>・アロマウォーターづくりは見てだけでなく、10分、20分ゆっくり浴びる(実際に療法を実感)できたら良かった。</li> <li>・まわりの町村と一緒に開催するのはいかがでしょうか？</li> <li>・告知が遅いと感じた。</li> <li>・より多くの人々がこの取り組みに関心を持つような動きが必要。</li> <li>・県や各市町村が関わる事業同士、横連携も必要だと感じた。</li> </ul>			
4. 本日の企画「里山フォーラム」はいかがでしたか。			
とても良い	10	62%	
良い	6	37%	
ふつう(どちらでもない)			
あまり良くない			
良くない			
合計	16		

【コメント】

- ・平和的な空気が常にあり、“学んで動いて食べて笑って”と出来る時空間は純粋に楽しかった。
- ・難しいことを考えずとも気軽に来れるのはとても良かった。
- ・実際に板材を使ったり、外(フィールド)に出て、素材を探して自然の音や風を感じた。
- ・Aに参加したが、時間・構成ともに良かった。
- ・遠くからきているので、15時に終わっていただくと助かる。
- ・スタッフの対応と昼食が良かった。
- ・ちくほくは初めて来ましたが、すごく良い印象を持った。
- ・誰を対象としたフォーラムなのか判り難いです。(村民？村外？関係者？)

5. 上原先生のワークショップ&講演はいかがでしたか。

とても良い	14	93%
良い	1	6%
ふつう		
あまり良くない		
良くない		
合計	15	

【コメント】

- ・山林活用をして村民の健康作りや村の活性化に役立てて欲しい。
  - ・分かりやすい、お話し上手、面白い、堅い感じではなく色々学び知れたので楽しく楽しかった。
  - ・内容はもちろん楽しく、為になり、今後の生活を豊かなアイデアをいただいた。
  - ・先生の人柄がとても親しみやすく良かった。
  - ・ユーモアが混じり、グラフなどを基に説明され、分かりやすく、そして楽しかった。
  - ・とても優しい口調とお話の内容で、とてもためになりました。
  - ・おもしろく話していただきありがとうございました。
  - ・広い分野のご説明もありがとうございました。
  - ・もっと時間が欲しかった。
  - ・午前中に講演、午後にワークショップの順序の方が眠くならずいいと思う。
  - ・身近なものが多く、森に行く楽しみにがまた増えました。アロマウォーターWSが大変面白かったです。
  - ・蒸散式しか知らなかったのが煮沸だけで簡単にできる方法は目からウロコでした。
  - ・ぜひうちのWSでも取り入れたい！
  - ・里山と森林と健康との関わりがよく分かった。
- 積極的に森の散策をしたいと思った。

6.「ロバの音楽座」松本雅隆さんのワークショップ&演奏会はいかがでしたか

とても良い	7	87%
良い	1	12%
ふつう		
あまり良くない		
良くない		
合計	8	

【コメント】

- ・音楽というものが元々は難しいものではなく、自然の木を叩いたり貝を吹くなど、そこに在るものを鳴らしむという原点に戻った気がした。
  - ・しっかり計ったりしたものより味があって楽しめた。
- 体全体で楽しめた。
- ・とても楽しい演奏会でした。

7. 本取組への関心が高まりましたか。

とても高まった	9	56%					
高まった	4	25%					
ふつう							
あまり高まらなかった							
高まらなかった							
回答無し	3	18%					
合計	16						

【コメント】

- ・楽しむ癒される自然の活用で人も森も元気になったと思った。
- ・各町村で問題を抱えていると思うので、共通で解決する分と、個別で取り組む分とをうまくやってほしい。
- ・安曇野市「さとぶろ。」とも連携して何かできると良いですね。

8. 地域の里山がどのような場所になるとよいと思われましたか。

- ・山里を通じて、山里を利用して、村民が**皆心豊かに**生活出来るようになれば良いと思う。
- ・人間の体質にかかわる部分なので、都会にとって里山が必要なものと確認できるよう、取組を広げてほしい。
- ・**生活を豊かにする場所**(資源、癒し、スポーツ)。
- ・里と山と人のかきねがなくなる。
- ・子供が楽しく遊べ、大人が恵みをいただける場所になるといい。
- ・「遊び、学び、実り」のあふれる場所。
- ・常に案内役の人が住んでいる。ex)みんなで造るキノコ林、栗林を造ろう&生まれて初めて栗拾い&栗
- ・いつでもだれでも、自由に訪れることができる場所。
- ・いろんな人が交流できる場所。

9. 今後、本取組に関連する催し等のご案内を送付してもよろしいでしょうか。

記入あり	5	31%					
記入なし	11	68%					
合計	16						



この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。